広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ワイマル共和国後期のベルリンにおける酒場と政治的暴力
Author(s)	原田，昌博
Citation	史学研究 , 305 : 203 - 228
Issue Date	2020-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00055690
Right	
Relation	

ワイマル共和国後期のベルリンにおける酒場と政治的暴力

原田　昌博

はじめに

ワイマル共和国後期のドイツでは、ナチスと共産党、しかしまた社会民主党と共産党の間でも街頭での衝突や襲撃が活発化していた。とりわけ1930年代に入ると、こうした政治的暴力は尖鋭化・日常化し、政敵どうしの暴力沙汰が毎晩のように繰り返されていたが[1]、政敵に対する暴力を忌避しないワイマル期の政治文化の中で、そうした暴力の拠点・起点として機能していたのが酒場であった。

ワイマル共和国後期の政治的暴力と酒場の関係については、1980年代にまずE・ローゼンハフトなど英語圏での社会史研究の中で議論の俎上に載せられたが、90年代に入るとドイツ語圏でもC・シュトリーフラー、D・シュミーヒェン＝アッカーマン、S・ライヒャルト、J・フュルベルト、O・レシュケなどの研究が登場し、さらに英語圏でもP・スウェットによる詳細な実証研究が発表されてきた[2]。政治的諸党派の酒場のうち、最も研究が進んでいるのはナチス突撃隊（SA）の酒場であるが、ライヒャルトはこの酒場を「内戦における前哨」、D・シューマンは「暴力の特別な培養器」と呼んで、政治的暴力と不可分の関係にあったことを指摘しており[3]、さらにシュミーヒェン＝アッカーマンやフュルベルトはナチスが労働者地区への侵入に成功したことを示すメルクマールの一つとして街頭行進や集会と並んで自らの酒場の設置を挙げている[4]。また、フュルベルトは1930年代以降には酒場周辺での政治的暴力が増大し、政治的勢力間の衝突のほとんどは酒場と何らかの関連があったと述べており[5]、スウェットもこの時期のほぼすべての政治的暴力が酒場やアルコールと何らかの関係があったと指摘している[6]。

こうした指摘を一瞥するだけでも、ワイマル共和国後期の政治的暴力において酒場が重要な役割を担っていたことが明らかになるが、さらにこれまでの研究に共通する点を挙げるとすれば、多くの研究で対象地域としてベルリンが選択されている点である。この理由としては、比較的良好な史料状況に加えて、この街でナチスと共産党による最も激しい街頭闘争が展開されていたことが挙げられるだろう。本稿もまたベルリンを対象とするが、可能な限り個別の事件に目を向け、具体層のレベルで政治的暴力と酒場の関係を明らかにしていく（以下では表記の煩雑を避けるため、酒場名についてはドイツ語で原語表記する）[7]。

ところで、本稿では史料としてベルリン州立文書館所蔵のベルリン地方裁判所検事総局およびベルリン警察本部、さらにプロイセン枢密文書館所蔵のプロイセン内務省の文書を用いるが、このうち特に中心となるのがベルリン地方裁判所検事総局の文書である。この史料は事件ごとにファイリングされており、それぞれの事件に関する警察の尋問・取調調書や報告書、検察の起訴状、裁判での判決文などが含まれている。そのファイル数は2500件を超えるが、本稿が扱うのはこの中で政治的暴力に位置づけることができる505件であり、その約半数で酒場が何らかの形で関わっていた(8)。この史料については、レシュケが「均衡のとれた判断には不適切」として、その使用価値に批判的な立場をとっている(9)。彼によると、ナチス体制の管理を経た同史料にはバイアスがかかっており、共産党の攻撃性を現実以上に読み取ってしまうことになるという。この史料に関する文書館の解説も、この文書が実際にナチス期（1935～39年）に選抜されてファイリングされており、「偏向した選択」を否めないと指摘している(10)。また、シュミーヒェン＝アッカーマンは全体として警察・検察史料には共産党との対決姿勢が強く出ており、その反面でナチスがもっぱら被害者として描かれる傾向にあると述べている(11)。こうした指摘を踏まえると、この史料の使用価値は著しく制限されることになるが、他方でこれがワイマル期の政治的暴力に関する詳細な情報（原因や経過、場合によっては関係者の証言）を得ることができる稀少な史料であることも事実である。本稿の目的は、これらの史料を慎重に利用しつつ、ワイマル期のベルリンで政治と暴力が結びつく状況が生じていたこと、換言すれば、暴力を忌避しない政治文化が日常の中で広がっていたことを酒場と政治的暴力の関係を通じて明らかにしていくことである(12)。

1　酒場への襲撃

ベルリン警視総監 A・グルツェジンスキ（社会民主党）は1932年７月８日付の『フォス新聞』のインタビューで「ベルリンで夜ごと必ず、過激な政敵どうしでひどい暴力行為が行われている」状況について、次のように語っている。「６月20日から７月７日までの間に、ベルリンでは発砲による政敵への襲撃が23件発生しています。６件は共産主義者、17件が国民社会主義者によるものです。この期間に発砲された160発のうち、２発が犠牲者に致命傷を負わせ、25名の負傷者が出ました。…近ごろの政治的な暴力行為においてひどく目立っているのが、計画的な襲撃行為がはっきりと現われている点です。５件ではバイクが、７件では車が敵の常連酒場の前に乗り付け、そこから見境なく、敵を負傷させるか殺害する意図をもって、窓ガラスやドア越しに店内へ向かって発砲したのです。…犯人たちは、人間の血を流す意図をもって酒場の前に乗り付けてきます。警察も通行人も、バイクや自動車がどんな目的を持っているのか見て取ることなどできません(13)」。彼によると、1931年末か

ら32年にかけてベルリンの労働者地区にナチスの常連酒場が登場すると、共産党側からナチスの酒場への計画的襲撃が行われて犠牲者が生まれ、その後は逆にナチスが共産党の手法を受け継いで共産党の酒場への発砲を行っていた。

このインタビューには、ワイマル共和国末期の政治的暴力に酒場が関係していた点が明示されている。ベルリンでは1928年頃にナチスの酒場が登場し、その数は30年代に入って共産党の酒場とともに急増していった。1920年代の政治的暴力はデモ行進や集会への襲撃や出会いがしらの衝突などで発生していたが、30年代に入ると酒場を拠点とする「陣地戦」の様相を呈するようになり、それとともに政敵の酒場は格好の攻撃目標となっていった。グルツェジンスキのコメントも示している通り、酒場をめぐる政治的暴力の最たる事例は酒場そのものへの襲撃であった。表１はワイマル共和国後期のベルリンにおける酒場への襲撃のうち、史料で確認できた83件を示したものである。このうち少なくとも44件（53％）で銃器による襲撃が行われており、とりわけグルツェジンスキのインタビューが行われた1932年７月に酒場への銃撃事件が頻発している。また、襲撃者はほぼすべての事件においてナチスもしくは共産党であったが、被襲撃者にはこの他に鉄兜団や国旗団も含まれていた。

表１に示された酒場襲撃の具体的状況に目を向けてみると、最も一般的な襲撃パターンは政敵が店の前に集結して銃撃や投石を行うものであった。すでに1928年11月にはウィーン通り（クロイツベルク）のナチスの酒場（Lokal von Kock）が共産党員や赤色前線兵士同盟（RFB）のメンバーにより「ほぼ毎日…何らかの妨害」を受けていたが、11月17日には投石で窓ガラスが破壊され、１週間後の24日深夜には約150名が笛の合図で押し寄せ、再び投石で窓ガラスやドアを破壊している[(14)]。

表１によると、1920年代後半から1932年６月前半頃までは、こうした共産党によるナチスの酒場への襲撃が頻発していたが、この時期はベルリン市内各所にナチスやSAが独自の酒場を設置している時期であり、こうした共産党の攻撃は酒場を中心に近隣社会で営まれていた政治的日常の中に突如として出現したナチスの酒場を排除しようとする「拒否反応」であったとみなすことができるだろう。例えば、シリング通り（ミッテ）にあった酒場（Lokal von Bergmann）はナチスの常連酒場ではなかったものの、主としてナチ党員が出入りする酒場であり、共産党側では「ナチ酒場」として憎悪の対象となっていた。1931年１月１日の深夜、十数名の共産党員が通りに整列してこの酒場に向けて発砲し、店内の客１名に命中して足を負傷している。この後も共産党側から繰り返し襲撃をほのめかす脅迫状が届いたため、この酒場は警察の警護対象となったが、同年10月19日22時過ぎには複数人がこの酒場に向けて12発を発砲してナチ党員１名が負傷し、襲撃者２名が逮捕されている。この襲撃の１時間半ぐらい前には不審人物が酒場内を外からのぞき込んで店内の様子を確認するのが目撃されており、さらに銃撃の直前には自転車に乗った２人組が犯行を予告するメッセージを書いた紙にくるまれた石を投げ込んで窓ガラスを破壊し

【表１】ワイマル共和国後期のベルリンおよびその近郊で発生した酒場への襲撃事件

	日付	襲撃者	被襲撃者	襲撃された酒場（場所）	概要	典拠
1	26.6.13	KPD (RFB)	SH	Lokal von Voigt (Rehfelde [ベルリン郊外])	鉄兜団の集会が行われていた酒場に共産党員（RFB）が押し入り妨害を試みるが、警察が阻止。その後、酒場に向かう鉄兜団員を襲撃し、５名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.297
2	27.1.27	KPD+RB	NS	Lokal von Zosske (Friedrichshain, Warschauerstr.)	ゲーベン通りでのナチスと共産党（RFB）・国旗団の間の衝突後、後者が酒場に向けて発砲。無関係の者１名の胸に命中して負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.102
3	28.4.26	KPD (RFB)	NS	Sturmlokal von Erfurth (Schöneberg, Hohenfriedbergstr.)	共産党員２名に続き、15～20名の RFB の制服を着た者たちが店内に乱入し、ナチ党員に暴行。	LAB, Rep.358–01, Nr.115
4	28.7.8	NS	KPD	KPD-Lokal “Volksgarten” (Nauen [ベルリン郊外])	キーリッツでの行事からベルリンに帰るナチ党員約150名を乗せた13台のトラックが、ベルリン近郊のナウエンにある共産党の酒場を通過する際に投石。ナチ党員がトラックから降りて乱闘へ発展し、酒場がひどく破壊される。負傷者10名（共産党７名、ナチス３名）。	GStA, Nr.119, Bl.284
5	28.8.10	NS	KPD	KPD-Lokal von Kinkel (Tempelhof)	ナチスの集会終了後、ナチ党員１名が共産党員に襲撃・暴行されたことを受けて、その夜にナチ党員が共産党の常連酒場を襲撃。負傷者不明。	GStA, Nr.119, Bl.287 LAB, Rep.358–01, Nr.117
6	28.10.13	KPD (RFB)	DNVP	DNVP-Lokal “Zur Hütte” (Steglitz, Plantagenstr.)	午前１時前、約10名の若者（うち１名が RFB の制服着用）が DNVP の酒場へ入りこみ、店内を破壊、物品を持ち去る。	LAB, Rep.358–01, Nr.2082 GStA, Nr.119, Bl.295 GStA, Nr.128, Bl.8
7	28.11.17	KPD	NS	NS-Lokal von Kock (Kreuzberg, Wiener Str.)	共産党側の投石により、店の窓ガラス破壊。ナチ党員約50名がフォルスト通りにある RFB の酒場に詰めかけ、酒場前で口論が発生。	GStA,Nr.128,Bl.65
8	28.11.24	KPD	NS	NS-Lokal von Kock (Kreuzberg, Wiener Str.)	共産党員約150名がチャスが出入りする酒場（以前の共産党の酒場）を襲撃。警察が先回りして、店内に入ろうとする共産党員を押しとどめ、ナチ党員を店内にとどめたため、乱闘は回避。その後、共産党員による投石で窓ガラスが破壊され、店先の物品が盗難される。８名逮捕。	GStA, Nr.119, Bl.299 Nr.128,Bl.65
9	28.11.29	KPD	NS	NS-Lokal von Kock (Kreuzberg, Wiener Str.)	100～120名の共産党員や RFB メンバーが店に殺到。激しい投石により、店の窓ガラスや正面玄関が破壊される。	GStA, Nr.128, Bl.70
10	28.12.31	KPD	?	Lokal von Zientek（ベルリン市内）	共産党員の襲撃により、店内の客との乱闘へ発展。客側の党派は不明。襲撃の際に共産党側が店の窓ガラスを破壊し、店内で５発の発砲。７名逮行。	GStA, Nr.119, Bl.305
11	29.9.10	NS ＋ SH	KPD	KPD-Lokal von Bottratz (Schöneberg, Sedanstr.)	店前に集結したナチスや鉄兜団メンバー（約50名）が投石と発砲（６発）。逃走した襲撃者を共産党側が追いかけて乱闘と発砲（４名負傷）。７名逮捕。	GStA,Nr.129, Bl.198
12	29.12.24	KPD	NS	NS-Parteilokal “Sportklause” (Wilmersdolf, Brandenburgischenstr.)	２人組の共産党員が通り越しに酒場に向けて発砲し逃走。その後、追いかけてきたナチ党員の１名が背中を撃たれて死亡、もう１名の無党派の者が跳弾により負傷。容疑者２名は逮捕。	LAB, Rep.030, Nr.7569, Bl.40ff.
13	30.3.4	KPD	NS	NS-Lokal von Kunigk (Prenzlauerberg, Chodowieckistr./Winsstr.)	共産党のデモ行進の隊列が酒場に向けて投石して、正面の窓ガラスを破壊。	LAB, Rep.030, Nr.7553, Bl.89ff.
14	30.3.11	KPD	NS	Lokal von Wolfermann (Schöneberg, Steinmetzstr./Büllowstr.)	集会帰りに共産党員に追いかけられたナチ党員が酒場に逃げ込むと、そこに向けて共産党員約20名が５～６発の発砲と投石。負傷者はなし。	LAB, Rep.358–01, Nr.141
15	30.5.25	KPD	NS	NS-Lokal“Afrika-Kasino” (Tiergarten, Lützowstr.)	店前に共産党員15～20名が集結するが、気づかれて逃走。追いかけてきた NS に多数の発砲（負傷者不明）。	GStA, Nr.130, Bl.19
16	30.8.2	KPD	NS	Lokal von Schulze (Mitte, Beusselstr.)	共産党員が店の中を覗き込んでいたため、様子を見に外に出たナチ党員２名が暴行されて負傷。その後、店への投石（瓶も）と多数の発砲で窓ガラスが破壊される（無関係の市民１名が負傷）。ナチス側も発砲。その他に３名が負傷。共産党のビラ配りへの襲撃に対する報復攻撃。	GStA, Nr.131, Bl.56
17	30.10.6	KPD	NS	SA-Lokal von Reissig “Zur Altstadt”, Charlottenburg, Hebbelstr.)	共産党員が酒場を投石し、窓ガラス１名を破壊。	GStA, Nr.314, Bl.105
18	30.12.29	KPD	NS	NS-Lokal (Kreuzberg, Wienerstr.)	20～30名の共産党員による投石と発砲。負傷者なし。	LAB, Rep.358–01, Nr.2353
19	31.1.1	KPD	NS	Lokal von Bergmann (Mitte, Schillingstr.	12名の共産党員が店内に向けて７～８発を発砲し、１名が負傷（店内には30～35名の SA 隊員）。	LAB, Rep.358–01, Nr.510
20	31.2.12	NS	KPD	Lokal von Wullschläger (Wilmersdorf, Uhlandstr./Düsseldorferstr.)	近くのナチスの酒場（Lokal von Birkau）から出てきたナチ党員約10名が酒場の前でタクシーを降りた共産党員に向かって発砲し、１名が胸を打たれて重傷。共産党員が逃げ込んだ酒場内に向けてさらに数発の発砲。ナチ党員４名逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.2361 LAB, Rep.030, Nr.7553, Bl.251
21	31.2.19	おそらく KPD	NS	NS-Lokal von Höhr (Kreuzberg, Kreuzbergstr./Katzbachstr.)	共産党員らしき10～15名が襲撃し、店内に向けて15発を発砲。１名が軽傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.162
22	31.2.20	KPD	NS	NS-Lokal von Jahnke (Spandau [Siemensstadt], Voltastr.)	23時45分ごろ、約40名の共産党員が投石で店の窓ガラスを破壊して逃走。２名を逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.611
23	31.7.26	KPD	NS	Lokal von Otto (Königwusterhausen [ベルリン郊外])	約25名のナチ党員がいた酒場に向かって投石し、窓ガラスを破壊。ナチ党員１名が負傷。警察が介入してさらなる衝突を回避。	LAB, Rep.358–01, Nr.594
24	31.7.28	KPD	NS	NS-Lokal von Drahmer (Schöneberg, Hohenstaufenstr.)	共産党の集会参加者の一部（30～40名）が店に向かって投石し、窓ガラスを破壊。店内へと突入しようとして、ナチ党員と乱闘。数名のナチ党員が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.179
25	31.8.13	KPD	NS	NS-Lokal “Tempo” (Schöneberg, Steinmetzstr.)	共産党員約40名が襲撃して、店の窓ガラスを破壊し、店の外に掲げられていたナチスの党旗を強奪。店の前で共産党員とナチ党員の乱闘。	LAB, Rep.358–01, Nr.593
26	31.9.9	KPD	NS	NS-Lokal„Zur Hochburg“ (Kreuzberg, Gneisenaustr.)	22時過ぎ、共産党員が酒場の外にいた見張りのナチ党員２名に向けて発砲し、その後ドアを開けて店内へも発砲。ナチ党員１名が死亡、３名が負傷（うち１名が重傷）。	LAB，Rep.358–01，Nr.8004–8005
27	31.9.24	NS	KPD	KPD-Lokal von Lach (Oranienburg [ベルリン郊外], Breitestr.)	数日前より市内でナチ党員と共産党員の暴力沙汰が頻発し、両サイドがかなり激昂した状態の中で、24日22時過ぎにナチ党員が店に向かって約20発を発砲と投石を行い、１名負傷。酒場の窓ガラスが破壊される。さらにナチス側（70～100名）が店を襲撃し、共産党員２名が重傷（刺傷・殴打）。その直後に警察が介入。	GStA, Nr.133, Bl.75 LAB, Rep.358–01, Nr.2634
28	31.10.15	KPD	NS	NS-Lokal von Böwe (Neukölln, Richardstr.)	共産党員約40名による襲撃がありわれ、そのうち４～５名が入り口付近から店内に向かって多数の発砲（少なくとも22発）。店主ベーヴェが頭を撃たれて死亡、２名が負傷（うち１名は重傷）。	LAB，Rep.358–01，Nr.8051–8060
29	31.10.19	KPD	NS	Lokal von Bergmann (Mitte, Schillingstr.)	警官２名が警戒していたナチスの酒場に対して、自転車に乗った共産党員が投石で窓ガラスを破壊した後、数名が店内に向けて８～12発を発砲。ナチ党員１名が負傷。共産党員４名を逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.2538 LAB, Rep.030, Nr.7574, Bl.74
30	31.12.5	NS	RB	Huttenstr.RB-Verkehslokal von Lux (Charlottenburg, Huttenstr.)	近くのナチスの酒場（Lokal von Klotzsche）からナチ党員80～100名が押しかけて店内で国旗団員と乱闘。	LAB, Rep.030, Nr.7556, Bl.327
31	31.12.10	KPD	NS	NS-Lokal von Hammermeister (Friedrichshain, Posenerstr.)	18時40分ごろ、投石により店の窓ガラス３枚が破壊され、21時ごろには店の前にできた人だかりから約10発の発砲が行われ、２名が負傷。店内からも外に向けて発砲あり。	LAB, Rep.358–01, Nr.2624
32	32.1.29	NS	KPD	Lokal von “Karlsgarten” (Neukölln, Karlsgartenstr.)	共産党の集会が予定されていた酒場に多数（50名程度）のナチ党員が殺到して、集会を妨害・粉砕しようとして店内や路上で乱闘が発生。負傷者10名、逮捕者24名。	LAB, Rep.358–01, Nr.224
33	32.2.7	NS	KPD	Lokal von Cissewski (Schöneberg, Ebersstr.)	店の前でのナチ党員と共産党員の口論をきっかけに、近くのナチスの酒場（Lokal von Muskulus）から押し寄せた50～60名のナチ党員が店内へ押し入り、共産党員に暴行（介入した警官にも暴行）。多数が負傷し、窓ガラスや店内の調度品（照明器具・テーブル・椅子・ビアジョッキなど）の大部分が破壊される。	LAB, Rep.030, Nr.7558, Bl.23 LAB, Rep.358–01, Nr.206 GStA, Nr.314, Bl.207, 217
34	32.2.11	KPD	NS	Lokal “Bürgergarten” (Schöneberg, Hauptstr.)	ナチスの集会前に酒場内に侵入した共産党員約150名がナチ党員や SA 隊員を襲撃し、激しい乱闘が発生したため、警察が介入。負傷者23名。	LAB, Rep.358–01, Nr.229
35	32.3.2	KPD	NS	NS-Lokal von Klotzsche (Charlottenburg, Huttenstr.)	14時ごろ、60～70名の共産党員が襲撃。窓ガラスを破壊し、押し合いの中でナチ党員１名が軽傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.1211
36	32.4.1	KPD	NS	NS-Lokal von Hesse (Birkenstr.)	午後10時ごろ、共産党員が窓ガラスに向けて４発の発砲と投石。店主もピストル２発で応戦。負傷者なし、共産党員２名逮捕。	LAB, Rep.030, Nr.7576, Bl.324
37	32.4.3	KPD	NS	NS-Lokal „Zur Hochburg“ (Kreuzberg, Gneisenaustr.)	店前に共産党員が集結、警察による排除。その後、共産党員と警察による衝突。警官の発砲により共産党員１名死亡。４名逮捕。	GStA, Nr.134, Bl.1
38	32.4.7	KPD NS	NS KPD	NS-Lokal von Steffer (Prenzlauerberg, Pasterurstr./Esmarchstr.)	19時ごろ、共産党のデモ参加者の一部がナチスの常連酒場の前を通過する際に窓ガラスを破壊。店内にいたナチ党員が椅子を手に外へ出たが、衝突には至らず。その後、近くの共産党の常連酒場付近でナチ党員と共産党員が衝突し、銃撃戦へ発展。SA 隊員１名が死亡。	LAB, Rep.358–01, Nr.2534
39	32.5.28	KPD	NS	NS-Lokal von Duscha (Mitte, Bernauer Str.)	５～６名の犯人が酒場のドアや窓越しに店内に向けて約30発の発砲。店内にいた客（ほぼすべてナチ党員）のうち、４名が負傷。犯人は逃走。	LAB, Rep.030, Nr.7577, Bl.189

ワイマル共和国後期のベルリンにおける酒場と政治的暴力（原田）

	日付	襲撃者	被襲撃者	襲撃された酒場（場所）	概要	典拠
40	32.6.3	KPD	NS	NS-Lokal “Zugspitze” (Mitte, Böttgerstr./Hochstr.)	共産党員がナチスの酒場の中へ手榴弾１個を投げ込む（被害は不明）。	LAB, Rep.030, Nr.7577, Bl.186
41	32.6.17	KPD	NS	NS-Lokal von Ulban (Kreuzberg, Alexandrinenstr.)	共産党員によるナチスの酒場への襲撃。共産党員７名とナチ党員５名遭行。KPD メンバー１名が装填済みの回転式拳銃所持。警察による威嚇射撃でさらなる衝突を回避。	LAB, Rep.030, Nr.7607, Bl.58
42	32.6.19	KPD	NS	NS-Lokal „Zur Hütte“ (Treptow, Lohmühlenstr.)	店内への多数の発砲で４名負傷（うち１名がSA 隊員）。８名逮捕（１名が実弾６発入り自動装填ピストルと８発入り弾倉所持）。	GStA, Nr.135, Bl.65
43	32.6.20	おそらく KPD	NS	NS-Lokal (Neukölln, Kaiser Friedrichstr.)	乗用車からナチスの酒場に向けて５発の発砲、１名負傷。	GStA, Nr.121, Bl.661
44	32.6.21	?	NS	NS-Lokal von Kunkel (Neukölln, Kaiser-Friedrichstr.)	午前３時ごろ、１台の乗用車からナチスの酒場に向けて５発の発砲。店内にいた１名が軽傷。	LAB, Rep.358-01, Nr.1666
45	32.6.24	NS (SA)	KPD	KPD-Parteilokal von Schröder (Steglitz, Teltow-Kanal-Str.)	ナチ党員やSA 隊員の投石により店の窓ガラスを破壊。負傷者なし。	LAB, Rep.358-01, Nr.1583 LAB, Rep.030, Nr.7607, Bl.59
46	32.6.24	NS	KPD/RB	Lokal“Pappschachtel” (Schöneberg, Rubensstr./Canovastr.)	ナチ党員が酒場に向けて連射銃撃。国旗団員１名がナチ党員に暴行されて軽傷。	GStA, Nr.121, Bl.661
47	32.6.25	NS	KPD	KPD-Lokal（ベルリン市内）	ナチ党員と思われる者たちが共産党の酒場を襲撃。投石で窓ガラスを破壊し、共産党員数名が負傷。犯人は逃走し、逮捕者なし。	LAB, Rep.030, Nr.7607, Bl.59
48	32.6.26	NS(SA)	RB	RB/SPD-Lokal von Heinze (Wedding, Barfußstr.)	30～40名のナチ党員とSA 隊員が酒場に押し入り、そこにいた国旗団員２名が暴行を受けて負傷。	LAB, Rep.358-01, Nr.1727
49	32.6.27	NS	KPD	KPD-Lokal von Wernicke (Steglitz, Rugestr.)	制服を着用したナチ党員による共産党の酒場への投石。	LAB, Rep.030, Nr.7607, Bl.60
50	32.6.28	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal (Schöneberg, Rubensstr.)	タクシーから共産党の酒場への３～４発の発砲。負傷者なし。	GStA, Nr.121, Bl.662
51	32.7.1	KPD	NS	SA-Sturmlokal “Zum alten Ziethen” (Schöneberg, Ziethenstr.) NS-Lokal “Ameise” (Schöneberg, Hauptstr.)	１台の乗用車がまずLokal “Zum Alten Ziethen” に向けて８発を発砲し、ナチ党員（SA 隊員）７名が負傷。その後、同じ乗用車がLokal “Ameise” に向けて車中から約15発を発砲し、ナチ党員２名が負傷（１名は重傷）。	LAB, Rep.358-01, Nr.8013-8014 LAB, Rep.358-01, Nr.1670 GStA, Nr.121, Bl.663 GStA, Nr.134, Bl.72
52	32.7.2	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal von Büsser (Friedrichshain, Voigtstr.)	23時30分ごろ、サイドカー付きバイクに乗った何者かが店に向かって６発の銃撃。負傷者２名のうち、１名は搬送された病院で死亡。	LAB, Rep.358-01, Nr.1158
53	32.7.2	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal (Mitte, Gottschedstr.)	乗用車から共産党の酒場に向けて６発の発砲。２名負傷。	GStA, Nr.121, Bl.664
54	32.7.2	NS	KPD	KPD-Lokal “Pappschachtel” (Schöneberg, Rubensstr.)	２台のバイクから共産党の酒場に向けて８～10発の発砲。負傷者なし。４名逮捕。	GStA, Nr.121, Bl.664 LAB, Rep.030, Nr.7606, Bl.248
55	32.7.2	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal (Wedding, Oudenarderstr.)	バイクから共産党の酒場に向けて６発の発砲。２名負傷。	GStA, Nr.121, Bl.664
56	32.7.2	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal (Friedrichshain, Voigtstr.)	バイクから共産党の酒場に向けて６発の発砲。１名死亡、１名負傷。	GStA, Nr.121, Bl.664
57	32.7.2	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal (Mitte, Prinzen-Allee)	バイクから共産党の酒場に向けて４発の発砲。負傷者不明。	GStA, Nr.121, Bl.664
58	32.7.2	おそらく NS	KPD	Lokal von Schenk (Mariendorf, Rathausstr./Kurfürstenstr.)	乗用車から共産党員が訪れていた酒場に向けて20発の発砲。負傷者 なし。	GStA, Nr.121, Bl.664 LAB, Rep.030, Nr.7606, Bl.250
59	32.7.2	おそらく NS	KPD	Lokal von Albrecht (Steglitz, Herderstr./Arndtstr.)	バイクから共産党の酒場に向けて３～４発の発砲。負傷者なし。	GStA, Nr.121, Bl.664 LAB, Rep.030, Nr.7606, Bl.249
60	32.7.4	RB	NS	NS-Lokal (ベルリン市内)	国旗団員がナチスの酒場に投石して逃走。負傷者なし。	LAB, Rep.030, Nr.7607, Bl.61
61	32.7.6	NS	KPD	KPD-Lokal von Beckmann (Pankow, Breite Str.)	約15名のナチ党員が店に対して銃撃と投石。その後、ナチ党員が店内に押し入り、共産党員との乱闘に発展し、客（共産党員？）２名が負傷。	LAB, Rep.358-01, Nr.1880
62	32.7.12	KPD	NS	Schanklokal von Sachs (Treptow [Oberschöneweide], Schillerpromenade)	共産党の使用を断り、ナチスに開放した酒場に対して、50～60名の共産党員が通りから店内にむけて石や椅子などを投げ込み、窓ガラスを破壊（発砲も行われた可能性あり）。負傷者なし。	LAB, Rep.358-01, Nr.1676
63	32.7.12	KPD	NS	NS-Lokal (Mitte, Steinstr.)	ナチスの常連酒場前に集まった共産党員が店内に向かって物（ガラス製の物体）を投げ込んだため、中から６名のナチ党員が飛び出してくるが、警官により店内に戻される。共産党員が立ち去らなかったため、警官が威嚇射撃。負傷者なし。	LAB, Rep.030, Nr.7559, Bl.251
64	32.7.13	NS	KPD	KPD-Lokal von Zeim (Lichtenberg [Karlshorst], Günthersstr.)	酒場に対して約15名のナチ党員が３方向から多数の車弾を撃ち込む。負傷者なし。その後に行われたアウグスタ＝ヴィクトリア通りのナチスの酒場の捜索で、ナチ党員20名を拘束し、装填された銃７丁などを押収。	LAB, Rep.030, Nr.7607, Bl.23
65	32.7.14	KPD	NS	NS-Lokal (Treptow [Oberschöneweide])	午前１時ごろ、店に向けての発砲。警察が近くの共産党の酒場（Lokal von Zeim）とその客46名に対する武器検査を実施。	LAB, Rep.030, Nr.7578, Bl.62
66	32.7.16	NS	RB	RB-Lokal von Stöbber (Lichtenberg, Oderstr.)	酒場付近での国旗団員１名と12名のナチ党員の口論から、ナチ党員が酒場に押し掛け銃声。ナチ党員がピストルを発砲し、その後、酒場前で乱闘に発展。３名負傷（国旗団員２名、ナチ党員１名）。ナチ党員12名を逮捕。	LAB, Rep.030, Nr.7558, Bl.358
67	32.7.16	NS	KPD	NS-Lokal von Arlt (Neukölln, Lessingstr.)	ナチスの酒場の新規開店に伴い、19日にかけて人だかりができ、店に対する暴力行為が発生（詳細は不明）。	LAB, Rep.358-01, Nr.1682
68	32.7.17	KPD	NS	NS-Parteilokal von Bach (Niederlehme [ベルリン郊外])	ベルリンから来たヒトラー・ユーゲント約200名の行進の途中で共産党員との乱闘が発生。その後、武装した約350名が酒場前に現れ、投石で窓ガラスをすべて破壊。	LAB, Rep.358-01, Nr.214
69	32.7.31	NS	KPD	KPD-Lokal von Zilz (Neukölln, Werderstr./Rungiusstr.)	深夜１時前、乗用車とその後からついてきた10数名のナチ党員らしき者たちの中から店内に向けて４～５発の発砲。店の外にいた共産党員１名が負傷。	LAB, Rep.358-01, Nr.1639 LAB, Rep.358-01, Nr.1589
70	32.8.15	KPD	NS	NS-Lokal von Könner (Friedrichshain, Markgrafendamm)	ナチスの酒場が共産党員に襲撃され、乱闘へ発展。負傷者不明。	GStA, Nr.126, Bl.22 LAB, Rep.358-01, Nr.1450
71	32.8.16	KPD	NS	NS-Lokal“Zur Eule (Mitte, Birkenstr./Bredowstr.)	ナチスの酒場への共産党員の投石で、窓ガラス３枚が破壊される。	GStA, Nr.126, Bl.23
72	32.10.15	NS	SH	SH-Lokal von Stiegling (Friedrichshain, Eldenaerstr.)	午前１時ごろ、店内で鉄兜団員と口論になったナチ党員が店を出た後、仲間を引き連れて再び店内に入ってきて口論。SA 隊員が鉄兜団員１名を暴行。	LAB, Rep.358-01, Nr.1320
73	32.10.20	KPD	NS	NS-Parteilokal (Spandau, Neuendorferstr.)	共産党員が店の窓ガラスを破壊（犯人は不明）。別の酒場から様子を見に行ったナチ党員３名が帰り道で共産党員に襲撃されて負傷。	LAB, Rep.358-01, Nr.1869
74	32.11.1	KPD	NS	NS-Lokal von Bunge (Lichtenberg, Gürtelstr.	近所での共産党員とSA 隊員の乱闘後、店の近くに100～150名の共産党員が集まり、何度も通りを往復したため、ナチス側が警察に通報。警察により人だかりは解散したため、襲撃は未遂。	LAB, Rep.358-01, Nr.1489
75	32.11.1	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal von Linder (Friedrichshain, Krautstr.)	ナチ党員と思われる者たちが酒場のドアのガラスとブラインドを破壊して逃走。クライン＝アンドレアス通りのナチスの常連酒場（Lokal von Bleeck）へ逃げ込む。	LAB, Rep.030, Nr.7578, Bl.329 LAB, Rep.358-01, Nr.1518
76	32.11.4	NS	RB	RB-Lokal von Brandis (Mitte, Stralauerstr.)	約30名の制服を着たSA 隊員が店内に押し入り、椅子やビアジョッキで客に暴行し、４名が負傷。去り際に窓ガラスを破壊。	LAB, Rep.358-01, Nr.1374
77	32.12.8	NS	KPD	KPD-Lokal von Schramm (Spandau, Brückenstr.)	ナチ党員（約20名）が駆けつけて酒場に近づき、10～20発発砲。逃げるナチ党員に対し共産党側が発砲。事件後、地区内のナチスの酒場に共産党によって煉瓦が投げ込まれる。	GStA, Nr.135, Bl.143
78	32.12.11	NS	KPD	Lokal von Hinze (Friedrichshain, Rigaer Str.)	近くでのナチ党員と共産党員の乱闘による負傷者を収容したSA の事務所の向かいにある酒場の前にいた共産党員にむけてSA 隊員が３発の発砲。銃弾が酒場の窓ガラスを貫通して展開の壁に命中。	LAB, Rep.358-01, Nr.1517
79	32.12.12	NS	KPD	KPD-Lokal (Friedrichshain, Gollnowstr.)	深夜０時20分ごろ、15～18名のナチ党員が店に近づき、12～15発を発砲。負傷者不明。	LAB, Rep.358-01, Nr.1490
80	32.12.24	NS	KPD	Lokal von Schlie (Friedrichshain, Weidenweg)	ナチ党員約20名に襲撃された共産党員３名が逃げ込んだ酒場に向けてナチス側が４～６発を発砲。１名が負傷。	LAB, Rep.358-01, Nr.749
81	33.1.13	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal von Lehmann (Wedding, Sparrstr.)	サイドカー付きバイクから発砲。負傷者不明。	GStA, Nr.135, Bl.202
82	33.1.22	おそらく NS	KPD	KPD-Lokal (Wedding, Neue Hochstr./Grenzstr.)	サイドカー付きバイクから発砲。酒場内にいた女性１名が負傷。	GStA, Nr.135, Bl.202
83	33.1.31	KPD	NS	NS-Lokal von Reute (Mitte, Boyenstr.)	共産党による多数の発砲でSA 隊員２名負傷、後に12名逮捕。	GStA, Nr.135 ,Bl.260.

NS= ナチス、SA= ナチス突撃隊、KPD= 共産党、RFB= 赤色前線兵士同盟、SH= 鉄兜団、RB= 国旗団

ていることから、警察は「計画的に準備された襲撃」とみなしている[15]。さらに、グルツェジンスキも述べているように、SA 解散命令が撤回された1932年６月後半以降、ナチスによる共産党の酒場への襲撃も増加していった。1932年７月30日にはルンギウス通りとヴェルダー通り（ノイケルン）の角にある共産党の酒場（Lokal von Zilz）をナチ党員が銃撃し、その際に跳飛弾が店の前にいた労働者の手に命中して負傷している[16]。1932年12月８日には共産党の幹部会議が開かれていたブリュッケン通り（シュパンダウ）の酒場（Lokal von Schramm）に駆け足で近づいてきた約20名のナチ党員が10発以上を発砲して逃走している[17]。ナチス側の攻勢は、各地区内にナチスの酒場が増加し、そこを拠点とした攻撃が展開していたことを物語っている。

こうした徒歩で敵の酒場に接近して行われる襲撃は、しばしば乱闘へと展開していた。1929年９月10日、セダン通り（シェーネベルク）の共産党の酒場（Lokal von Bottratz）前に約50名のナチ党員と鉄兜団員が集結して投石や発砲を行ったが、逃走した襲撃者を共産党員が追いかけて乱闘となり、ナチ党員４名が負傷している[18]。また、1931年８月13日のシュタインメッツ通り（シェーネベルク）のナチスの酒場（Lokal „Tempo“）への共産党の襲撃では、店の外に固定されていたナチ党旗が奪い取られ、店のドアが破壊された後、店内にいたナチ党員と共産党員の間で乱闘が発生している[19]。

1932年に入って警察による酒場への警戒が強化された結果、襲撃のための移動手段として自動車やバイクを使用するケースが増加していった。先のグルツェジンスキのインタビューでも、政敵への攻撃方法として自動車やバイクが「敵の常連酒場の前に乗り付け、そこから見境なく、敵を負傷させるか殺害する意図をもって、窓ガラスやドア越しに店内へ向かって発砲した」点が強調されている。例えば、1932年６月21日午前３時頃、カイザー・フリードリヒ通り（ノイケルン）のナチスの酒場（Lokal von Kunkel）に乗用車から５発の発砲が行われ、銃弾が店の外の広告板や窓ガラスを貫通して店内のグラスを破壊し、店内にいた１名が軽傷を負っている[20]。７月１日午前０時過ぎには１台の乗用車からツィーテン通り（シェーネベルク）のナチスの酒場（Lokal „Zum alten Ziethen“）に向けて複数のピストルで８発の銃撃が行われ、店内にいたナチ党員７名が負傷している。その後、この車はハウプト通りを走行し、インスブルック広場を越えたヴィーラント通りとの角にあるナチスの酒場（Lokal „Ameise“）の前に停車してこの酒場と前庭にいた客に向けて15発を発砲して２名を負傷させ（１名は胸を撃たれる重傷）、さらにその付近でもう一度発砲して、そのまま走り去っている[21]。この銃撃への報復として、翌日（２日）には市内各地の共産党の酒場に対する銃撃事件が連続して発生している。例えば、同日23時30分ごろ、フォイクト通り（フリードリヒスハイン）の共産党の酒場（Lokal von Büsser）のそばをサイドカー付きバイクが無灯火でゆっくり通り過ぎ、その際

に２丁のピストルから６発の発砲が行われ、店内にいた客１名が頭を撃たれて死亡している[22]。また、ヘルダー通りとアルント通りの角（シュテークリッツ）の酒場には同じく無灯火のバイクから３～４発が発砲され、市南部のマリーエンドルフの酒場（Lokal von Schenk）には乗用車から20発の銃弾が撃ち込まれ、犯人は逃走している[23]。この２つの酒場は警察から共産党の酒場とみなされておらず、無警戒の状態だった。1933年１月にはヴェディングでおそらくはナチスによると思われる共産党員への連続発砲事件（４件）が発生しており、その中で13日にシュパール通りの酒場（Lokal von Lehmann）、22日にノイエ・ホッホ通りとグレンツ通りの角の共産党の酒場（店名不明）にサイドカー付きバイクから発砲が行われ、後者の事件では店内にいた女性１名が負傷している[24]。警察は銃弾の鑑定からこの一連の発砲を同一犯による犯行とみなしている。

こうした店外からの銃撃は店内にいた者に命中する危険があるにせよ、店の一部を破壊するケースがほとんどであった。それに対して、事例は少ないがドアを開けて店内に向けて発砲する襲撃はより大きな被害をもたらしていた。1931年９月９日にグナイゼナウ通り（クロイツベルク）のナチスの酒場（Lokal „Zur Hochburg“）を共産党が銃で襲撃した事件を見てみよう[25]。ここはSAの酒場であり、同じ通りには共産党の酒場（Lokal von Emma Lange）、近隣にはさらに２つの共産党の酒場が存在していた。Lokal „Zur Hochburg“ に出入りする常連客には共産党からナチスに「転向」した者もおり、この点が共産党側の怒りを買っていたという。この日は常連のSA隊員がナチスの集会に参加していたため店内には12～15名しかおらず、店のドアの前には見張りが２名が立って警備していた。22時前に４～５名の集団が店内に入ろうとした際に突然、見張りの２名（ティールシュとゼーリンク）に向けて発砲し、続いてドアを開けて店内に向けて６発を発砲した。この襲撃で見張り役のティールシュは頭部を撃たれて死亡し、ゼーリンクは腹部に命中して腎臓摘出の重傷を負い、店内では２名が負傷した。事件直後、Lokal von Emma Langeにいた７名が容疑者として逮捕・連行されたが、嫌疑不十分で釈放されている[26]。警察はこの地域一帯が「過激な政党間で先鋭化した政治状況」であり、その中で共産党からナチスへの転向が襲撃のきっかけを与えたと報告している。

この事件の１か月後にも、別の重大な襲撃事件が発生している[27]。10月15日18時30分頃、ナチスの酒場（Lokal von Böwe）があるリヒャルト通り（ノイケルン）の近辺で人の往来が急に活発となり、通りや側道にいた者が集結して30～50名の集団が形成された。この集団はゆっくり通りを移動し、突然「ファシズム打倒」と叫び、「インターナショナル」を歌い始めたため、警戒していた警官は応援要請のため近くの電話へ向かったが、この隙に集団の中の４～５名がLokal von Böweの店内に向けて少なくとも22発を発砲した。この銃撃ではまず入り口の窓ガラスが割られ、そこから店内に向かって次々と銃弾が撃ち込まれており、酒場の店主ボーヴェ

が頭部を撃たれて死亡し、他に２名が重傷、１名が軽傷を負った（店内にいたのは店主の他に18名）。実行犯は元の集団に紛れて逃走している[28]。事件に関する警察の報告書の中では、警察はこの襲撃を「共産党側によりかなり以前から準備された企て」とみなし、現場検証の状況から襲撃者の明らかな殺意を指摘している。

こうした政敵の酒場への直接的な襲撃は、時として地域内での政治的な闘争の中で発生した衝突の報復や復讐の文脈で行われていた。1928年８月10日にテンペルホーフでの集会から帰宅するナチ党員が共産党員に襲撃され、ナチ党員１名がナイフで肺を刺されて重傷を負う事件が発生した。ベルリン通りとフリードリヒ・ヴィルヘルム通りの角の酒場（Lokal von Schauer）に集まったナチ党員は報復のため近くの共産党の酒場（Lokal von Kinzel）へ向かい、店内を探るために３名がまず酒場に入ったが、ナチ党員であることが見破られ（３名のうち１名が共産党員に顔を知られていた）、共産党員が酒場を施錠した後にこの３名を暴行した。その後、外にいたナチ党員約40名が窓ガラスを割って中に入ろうとして騒動になった時に警官が介入している[29]。また、1930年８月２日にはボイセル通り（ミッテ）のナチスの酒場（Lokal von Schulze）から外に出たナチ党員２名を共産党員が襲い、続いて酒場の窓ガラスが投石で破壊された上に多数の発砲が行われたが、警察の捜査でこの襲撃がそれ以前に発生した「共産党のビラ配り２名への暴行の報復行為」であったことが判明している[30]。1930年12月29日にはウィーン通り（クロイツベルク）のナチスの酒場に対して20名以上の共産党員が投石と発砲を行っているが、容疑者の一人は警察による取り調べの中でナチスに射殺された仲間の復讐だったと供述している[31]。

以上のような犯行後に襲撃者が逃走した事件とは別に、明らかに政敵との乱闘の意志をもって襲撃を行うケースもあった。1928年４月26日にホーエンフリードベルク通り（シェーネベルク）のナチスの酒場（Lokal von Erfurth）で発生した乱闘は、酒場でのナチスと共産党の衝突の最も早い事例の一つである。偵察の２名が先に店内の様子を探った後、15～20名の RFB の制服を着た者が乱入し、ナチ党員に素手やビアジョッキ、椅子で暴行している[32]。同年７月８日には行事帰りのナチ党員150名を乗せたトラック15台がベルリン郊外のナウエンで共産党の酒場前を通過した際に投石し、そのまま酒場に押し寄せて乱闘となり、酒場の設備を破壊している[33]。1931年７月28日にはホーエンシュタウフェン通り（シェーネベルク）のナチスの酒場（Lokal von Dahmer）の前で共産党の集団が掛け声とともに投石で窓ガラスを破壊し、店内に押し入ろうとしてナチ党員ともみあいになり、そのまま乱闘に発展している[34]。1932年２月７日にはエバース通り（シェーネベルク）の共産党の酒場（Lokal von Cissewski）の前にいた共産党員を200メートル離れたマックス通りにあるナチスの酒場（Lokal von Muskuls）から出てきたナチ党員が襲い、ナチ党員の警笛の合図で酒場から出てきた SA 隊員など約70名が共産党の酒場へと押し

寄せた。共産党側は酒場を施錠して侵入を阻止しようとしたが、ナチ党員たちは店の窓ガラスを蹴破り、店内に乱入して乱闘が発生した。警官が介入したものの少数で無力であり、ナチ党員たちはLokal von Cissewskiの店内を完全に破壊して、自分たちの酒場に戻っている[35]。1932年６月27日にはナチスの一団（30～40名）がバールフス通り（ヴェディング）の国旗団の酒場（Lokal von Heinze）に押し入り、店内に隠れていた国旗団員２名を見つけ出して流血するほどの激しい暴行を加えている[36]。1932年７月６日にはブライテ通り（パンコウ）の共産党の常連酒場（Lokal von Beckmann）が約15名のナチ党員に銃撃され、正面入り口の窓ガラスが投石で割られた後、ナチ党員が店内になだれ込んで、共産党員との殴り合いが発生し、共産党員１名がビール瓶で頭部を殴られて負傷している[37]。その10日後の７月16日にはオーデル通り（リヒテンベルク）の国旗団の酒場（Lokal von Stöbber）に12名のナチ党員が押し入り、店内にいた６名の国旗団員と乱闘となっている[38]。さらに1932年11月４日にもナチ党員約30名がシュトラーラウ通り（ミッテ）の国旗団の酒場（Lokal von Brandis）を襲撃し、椅子やビアジョッキで店内の客に殴りかかって負傷させている[39]。

政治化した酒場に対する襲撃の事例には、酒場が近隣社会内の政治的拠点として機能するようになった1930年代初頭のベルリンの状況が反映されていたといえよう。こうした襲撃は、第一に街頭や酒場外で発生した暴力に対する復讐や報復として、第二に近隣社会の日常に出現した非日常的な存在に対する排除行動として[40]、第三に近接して敵対する政治的酒場の間での継続的な闘争として発生していたのである。

２　酒場内でのトラブル

酒場をめぐる政治的暴力の第二のパターンとしては、一般の酒場に敵対する党派が居合わせ、その場での口論や挑発から乱闘へと発展するケースが挙げられる。すでに19世紀から20世紀への世紀転換期には「ベルリンの都市風景は酒場によって刻印されていた[41]」あるいは「ベルリンでは1905年には一つの区画につき１軒の酒場があった[42]」と言われるように、ベルリンでは街中に多数の酒場が乱立していた。政治的酒場の数はベルリン全体の酒場を考えるとごくわずかであったが、そもそも飲酒の場としての酒場は、非政治的な酒場であっても、アルコールの影響で口論や挑発行為、さらには暴力と親和的であり、そこに政治的に敵対する者どうしが居合わせれば、たちまち暴力の発生源となっていた。

かなり早い時期ではあるが、1925年10月３日、フリーデナウ（シェーネベルク）の酒場（Lokal von Sawitzki）で共産党員４名と社会民主党員数名の間で政治的な口論が発生し、店主ザヴィツキが仲裁に入ったが、逆に共産党員がザヴィツキを散歩

用ステッキで暴行し、全面的な乱闘へと展開している。この事件の起訴状や判決文によると、共産党員のうち３名が大量に飲酒しており、社会民主党員を罵倒して衝突のきっかけを作っていた[43]。1931年１月11日、ナチ党員３名がドルフ通り（リヒテンベルク）の酒場（Lokal von Staab）に行くと、そこには多数の共産党員がおり、ナチ党員と共産党員の口論の後に共産党員１名がこのナチ党員を殴ったため、ナチ党員は携帯していた拳銃を発砲して無関係の客の腕に命中している[44]。さらに、1932年９月６日にはマウアー通り（ミッテ）のナチスの酒場（Lokal von Hecht）にいた鉄兜団員たちが店主の発した「ハイル・ヒトラー」の叫びに反発したことをきっかけにナチ党員たちと口論になり、そのまま乱闘が発生している[45]。

また、政敵の常連酒場をわざわざ訪れて、そこで必然的にトラブルが発生するケースもあった。1931年２月22日、ナチ党員２名がビールを飲むためにバウツェン通り（シェーネベルク）の酒場（Lokal von Frömmlich）を訪れたが、そこは多くの共産党員が出入りする酒場であり、しかもこの２名はナチスの徽章をつけていたため容易に政敵だと認識され、共産党員たちは両名が酒場から出る際に暴行を加えている[46]。さらに深刻なケースは1932年４月24日未明に発生した共産党員によるナチ党員の殺害である。23日深夜に共産党員がメッケルン通り（クロイツベルク）の酒場（Lokal von Beckmann）でかなり飲酒した後、同じ地区内でナチスの常連酒場として知られているクロイツベルク通りの酒場（Lokal von Höhr）に８名が徽章をつけたまま行くことを決めた。24日午前３時頃、この酒場に到着すると、８名のうち４名が店内に入り、残りは路上で待機することになったが、４名が入るとすぐにナチ党員と口論となったため酒場を追い出され、その後も酒場の前で両党員が口論を続けたため警察が介入してその場は事なきを得た。しかし、その後、この共産党員と酒場を出たナチ党員の間で衝突が発生し、共産党員の発砲がナチ党員１名の頭部に命中して死亡している[47]。さらにワイマル末期の２つの事例を見てみよう。1932年10月20日午前２時30分頃、オルデンブルク通り（ティアガルテン）の共産党の酒場（Lokal von Marx）に約10名のナチ党員が入ってきてビールを要求するが、すでに閉店したことを理由に店主はこれを拒否し、ナチ党員が無理やりカウンターの中に入ろうとしたため、店主はナチ党員たちに店から出ていくように求めた。その後、店内にいた客の詰問に逆上したナチ党員数名がこの客に暴行を加えたため、逆に通りに出たナチ党員たちを共産党員が襲撃して激しい乱闘が発生し、その中でナチス側の発砲で共産党員１名が頭を撃たれて重傷を負い、ナチ党員１名が鼻骨を骨折している[48]。もう一つの事例は、ティアガルテンのハーフェルベルガー通りとそれに直交するシュテンダール通りで近接していた共産党の酒場（Lokal von Mischke）とナチスの酒場（Lokal von Kadtke）の間のトラブルである。1932年12月23日、後者で行われたクリスマスの祝宴後、23時頃にナチ党員４名が前者の酒場に立ち寄っている。４名は23時頃に入店してビールを飲んでいたが、店内の客は当然

ほとんどが共産党員であり、さらに店外から共産党員が駆けつけ、Lokal von Kadtke からもナチ党員がやってきて店内に入ろうとしたため乱闘騒ぎになった。この中で、店に入ったナチ党員４名のうちの１人がナイフで下腹部を刺され、後に死亡している[49]。

この他に個人的なトラブルが政治的な暴力へとつながるケースもあった。1931年８月３日夜半過ぎ、ベルリーナー・ショセー（リヒテンベルク）の酒場（Lokal von Böttiger）で共産党とナチスの乱闘が発生し、ナチ党員一人が鼻骨を骨折して流血する負傷を負ったが、この乱闘のきっかけはその日の午後に同じ酒場で発生した個人的な理由での口論であった。この口論の騒動が知れ渡り、その日の深夜にナチ党員６～７名が酒場に現れて共産党員を挑発・暴行したと警察は報告している[50]。

酒場内でのトラブルのもう一つのパターンが、「ホール内乱闘 Saalschlacht」と呼ばれる政治的な集会の中で発生する暴力である。多くの酒場には飲食を行うスペースとは別に集会用の部屋が併設されており、各党派はしばしばそこで集会を行っていた。こうした集会では政敵が演説者や聴衆として招かれるケース（特にナチスの集会への共産党員の招待）があり、敵対側も登壇して演説を行うことも珍しくなかった。政敵が大勢で勝手に押しかけるケースもあり、集会の興奮の中でしばしばヤジや怒号が暴力行為へとエスカレートしていった。ナチスがまだ弱小であった1927年９月23日、ハウプト通り（シェーネベルク）の酒場（Schloßbrauerei）でナチスの公開集会が開催され、約900名が参加したが、そのうち約100名は共産党員であった。集会では激しいヤジが飛び交い、終盤に共産党側がインターナショナルを歌うと、ナチスは愛国的な歌（Deutschlandlied）で応酬したことでビアジョッキや椅子を使った乱闘が発生した。警察が介入して乱闘は一時的に収まったが、その後も路上で継続した[51]。1930年１月14日、ケーペニックの市営劇場のレストランで開かれたナチスの集会には600～700名が参加したが、そのうち約３分の２は妨害目的の共産党関係者だった。集会は激しいヤジで再三にわたって中断した。演説者となっていた共産党員が第三インター万歳を叫んで、共産党参加者がインターナショナルを歌いながら会場を出る際に、ナチ党員と共産党員の間で灰皿、ビアジョッキ、椅子などを武器に激しい乱闘が発生している[52]。1931年３月12日にはヴィルヘルム通り（リヒテンベルク）にある酒場（Lokal von Schnorrer）で開催されたナチスの公開集会に国旗団員や共産党員が大挙して押しかけ、ナチ党員がこれらの敵対勢力を追い出そうとしたために乱闘となり、多数の負傷者が出ている[53]。1931年７月31日にカルメン・ジルヴァ通りとグービッチュ通りの角（フリードリヒスハイン）にある酒場（Lokal „Hermannsheim“）で開かれた共産党の公開集会には社会民主党員や国旗団員が参加し、共産党も社会民主党も演説者を立てたが、それぞれの演説では激しいヤジが飛び交い、集会後に退場する社会民主党員や国旗団員に対して共産党員の一人が椅子を投げつけたことがきっかけで激しい乱闘が発生し、警察が介入して双

方で41名が逮捕されている。この乱闘でも椅子やビアジョッキが投げつけられ、４名が負傷している[54]。さらに1931年９月11日にベルリン近郊ラーンスドルフの酒場（Lokal von Schäke）で約200名が参加してナチスの公開集会が開かれたが、参加者のうち約70名は共産党員だった。集会は21時に始まったが、23時頃に共産党の演説者が不規則な発言を繰り返し、ナチス側が降壇させようとしたため、ビアジョッキや椅子の脚を武器に共産党員とナチスの乱闘が発生している[55]。以上のように、酒場を利用した政治的集会では、たとえ事前に武器検査を行って「丸腰」で集会場に入っても、多くの場合そこにあるビアジョッキや椅子の脚が「武器」となって激しい乱闘が展開していた。

３　酒場からの攻撃

ここで再び一般の酒場から政治的酒場へと視点を戻してみたい。先に取り上げた「酒場への攻撃」と逆のケースが「酒場からの攻撃」である。政治的酒場にはしばしば党員やシンパが（特に夜間は）常駐し、政治的暴力の拠点として機能していたが、その一つのパターンが酒場の前や近辺に政敵が現れた場合に酒場から襲撃を行うものであり、もう一つが街頭での衝突や乱闘の際に酒場から援軍が「出撃」するというものであった。表２は酒場にいた者が酒場の外にいる政敵を襲撃した40件の事例をまとめたものであり、襲撃者の内訳は共産党27件、ナチス９件、国旗団３件、鉄兜団１件となっている。こうしたパターンの暴力の発生条件は政治的酒場がある程度定着することであり、ほとんどが1930年代に入って発生している。

表２の中には、酒場の前を政敵が個人や集団で通過した際に偶発的にトラブルが発生するケースが比較的多く見られる。史料で最初に確認できたのは、1929年10月20日にリヒターフェルデ東駅付近で発生した襲撃事件である[56]。駅の近くのクラノルト広場で市電に乗車しようとしていた鉄兜団員５名をこの広場に面する酒場（Lokal „Zum gemütlichen Pommern“）から出てきた共産党員たちが椅子の脚やビアジョッキを武器に襲撃し、鉄兜団員だけでなく市電乗務員や乗客までも無差別に殴りつけている。事件後、共産党員は酒場に戻っており、そこで数名が容疑者として逮捕されている。1930年12月15日深夜に集会帰りの国旗団員約20名が酒場（Lokal von Klaus）から出てきた約30名の共産党員に襲撃されたのも、酒場があるアッカー通り（ミッテ）を歩いていた時であり、この襲撃で国旗団員数名が重傷を負っている[57]。1931年６月28日夜半過ぎにハウプト通り（シェーネベルク）の酒場（Lokal „Heidekrug“）の前で共産党員がナチ党員を襲撃した事件では、ナチ党員が共産党員の徽章をもぎ取ってトラブルになった際に、別の者が酒場内に向かって「ナチが外にいる」と叫んだことで、酒場内の客ほぼ全員がナチ党員を追いかけていった[58]。また、1932年１月20日13時30分頃、シェーンライン通り（クロイツベルク）の共産

【表２】ワイマル共和国後期のベルリンおよびその近郊で発生した酒場前でのトラブル（酒場からの攻撃）

	日付	襲撃者	被襲撃者	襲撃の起点となった酒場（場所）	概要	典拠
1	28.10.28	SH	KPD (RFB)	店名不明 (Oranienburg [ベルリン郊外])	オラニエンブルクの酒場の前を RFB メンバーを乗せたトラック５台が通過した際、酒場の中にいた鉄兜団員がトラックに向かってビアジョッキや灰皿を投げつける。	GStA, Nr.119, Bl.272
2	29.10.23	KPD	SH	KPD-Lokal “Zum gemütlichen Pommern” (Steglitz, Kranoldplatz)	リヒターフェルデ東駅で市電車両に乗り込もうとした鉄兜団員を椅子の脚やビアジョッキで武装した共産党員が襲撃・殴打。鉄兜団員が抵抗すると、酒場からさらに援軍が出てきて30～40名に、市電の運転手にも暴行の被害。市電車両の窓ガラスが壊され、女性１名が負傷。犯人は逃走。	LAB, Rep.358–01, Nr.2186
3	30.4.29	NS	RB	NS-Lokal von Kunigk (Prenzlauerberg, Chodowieckistr./Winsstr.)	国旗団員が店の前でナチ党員にピストルで脅される。	LAB, Rep.030, Nr.7553, Bl.89ff.
4	30.7.11	RB	SH	RB-Lokal “Ringeltaube” (Treptow, Lohmühlenstr.)	鉄兜団員１名が国旗団の酒場の前を通った際に国旗団員数名と口論となり、国旗団員が鉄兜団員に暴行。２名逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.152
5	30.8.24	KPD	NS	KPD-Lokal von Wernicke (Schöneberg, Bahnstr.)	酒場の前を通行していたナチ党員に酒場内にいた共産党員がしつこくからんだため、警察が介入して共産党員を酒場に戻し、ドアと窓を閉めさせる。	LAB, Rep.030, Nr.7570, Bl.92
6	30.9.12	KPD	NS	KPD-Lokal “Brauen Bär” (Steglitz[Lichterfelde], Hindenburgdamm)	共産党の酒場近くで選挙用のビラを配っていたナチ党員４名が共産党員と口論になり、この酒場にいた共産党員や別の酒場から呼ばれた共産党員合わせて約15名がナチ党員を襲撃。ナチ党員２名が頭部に重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.159
7	30.9.14	KPD	SPD/RB	KPD-Lokal von Lange (Mitte, Wiclefstr.)	社会民主党と国旗団のプロパガンダ行進が酒場前を通過した際、酒場にいた共産党員と口論になり、酒場前で乱闘へ発展。乱闘を阻止しようとした国旗団員１名が頭を殴られて失神。	LAB, Rep.358–01, Nr.2206
9	30.11.30	KPD	NS	KPD-Lokal von Lorenz (Kreuzberg, Nostizstr.)	ナチ党員（SA とヒトラーユーゲント）のデモ行進の解散後、15～20名がカイザー・・フリードリヒ広場付近を移動していた際、酒場から出てきた共産党員（30～35名）がナチ党員を襲撃。投石や暴行、さらに２発の発砲。多数のナチ党員が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.161
9	30.12.15	KPD	RB	Lokal von Klaus (Mitte, Ackerstr.)	集会帰りの国旗団員約20名が酒場前を通過した際に酒場から出てきた共産党員約30名に襲撃され、２名が重傷。共産党員17名を逮行。	LAB, Rep.358–01, Nr.2358
10	30.12.19	KPD	警察	KPD-Parteilokal (ベルリン市内)	共産党の違法なビラ貼りで逮捕した者を署に連行中、共産党の酒場前で10～12名の共産党員が警官２名に暴行し、１名がナイフで刺される。もう一人の警官が発砲し、共産党員１名に命中して死亡。	GStA, Nr.132, Bl.1
11	31.2.12	NS	KPD	Lokal von Birkau (Wilmersdorf, Düsseldorferstr.)	酒場から出てきたナチ党員約10名が近くの別の酒場（Lokal von Wullschlager）の前に立っていた共産党員に向けて発砲。酒場に逃げ込んだ後も、さらに酒場に向けて数発の発砲。	LAB, Rep.358–01, Nr.2361
12	31.4.1	NS	RB	SA-Lokal von Thiele (Pankow, Bismarckstr.)	国旗団員２名が酒場から出てきたナチ党員約20名に襲撃され殴られる。	LAB, Rep.358–01, Nr.620
13	31.6.28	KPD	NS	Lokal “Heidekrug” (Schöneberg, Hauptstr.)	深夜に12～15名のナチ党員が酒場前を通った際、そのうちの１人が酒場前にいた者が付けていた徽章をもぎ取ったため、酒場内にいた共産党員がナチ党員を追跡して投石。	LAB, Rep.358–01, Nr.174
14	31.7.21	KPD	NS	KPD-Lokal (Kreuzberg, Lausitzer Platz)	共産党の酒場前でナチ党員が襲撃され、殴打と発砲で３名が重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.2595
15	31.8.3	KPD	NS	KPD-Lokal von Klebe (Spandau, Hohersteinweg)	自転車に乗った買い物帰りのナチ党員が酒場前にいた多数の共産党員に引きずり倒されて暴行を受ける。	LAB, Rep.358–01, Nr.197
16	31.8.7	KPD	警察	KPD-Kokal von Greulich (Lichtenberg, Mainzer Str.)	社会民主党のデモ隊約700名が酒場前を通過した際、酒場前に出てきた50～60名の共産党員が叫び声を上げたため、警察が酒場内へ通し戻し、酒場のドアをデモ行進の通過まで閉鎖。その後、350～400名の共産党員が行進を追跡したため、警察が遮断線を設置すると、警官に対して投石。３名負傷、15名逮捕。	LAB, Rep.030, Nr.7573, Bl.42
17	31.9.2	KPD	NS	KPD-Lokal von Wernicke (Schöneberg, Bahnstr.)	ナチスの酒場を出た直後のナチ党員２名が同じ通りの共産党の酒場から出てきた者たちに襲撃され、暴行を受ける。ナチ党員２名のうち１名は飾十字がついた帽子を着用していた。	LAB, Rep.358–01, Nr.173
18	31.9.6	KPD	NS	KPD-Lokal von Kobierski (Köpenick, Grünauer Str./Schönerlider Str.)	ビラ配りをしていたナチ党員が酒場前を通り過ぎようとした際に、酒場前にいた共産党員と政治的な内容の口論になり、その後、乱闘へ発展。	LAB, Rep.358–01, Nr.180
19	31.9.11	KPD	NS	KPD-Lokal “Roter Stern” (Treptow [Oberschöneweide], Brückenstr.)	酒場の近くにいたナチ党員２名に対して、酒場から５～６名の共産党員が飛び出して暴行。ナチ党員１名が重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.198
20	32.1.20	KPD	NS	KPD-Lokal (Kreuzberg, Schönleinstr.)	13時過ぎにナチスの一団（10～12名）が酒場前を通過すると、酒場前にいた８～10名の共産党員と直行するポップ通りから現れた別の共産党員の集団（20～25名）がナチ党員を襲撃し、激しい乱闘へ発展。	LAB, Rep.358–01, Nr.203
21	32.2.7	NS	KPD	NS-Lokal von Muskulus (Schöneberg, Maxstr.)	酒場を出た８～10名のナチ党員が別の酒場の前にいた共産党員と口論になり、笛の合図でナチスの酒場から50～60名のナチ党員が飛び出て乱闘へと発展。	LAB, Rep.358–01, Nr.206
22	32.2.11	KPD	NS	Lokal “Marktbörse” (Treptow/Oberschönweide, Siemensstr.)	21時ごろ、ナチ党員３名が酒場から出てきた共産党員約30名に襲撃され、殴り倒されて負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.227
23	32.2.28	KPD	NS	KPD-Lokal von Fraupe (Friedrichshain, Gollnowstr.)	集会から帰宅していたナチ党員の兄弟が酒場から出てきた共産党員約30名に襲撃される。２名は近くの酒場（Lokal von Weber）に逃げ込むが、共産党員が酒場内に押しかけビアジョッキで殴打し流血。	LAB, Rep.358–01, Nr.1072
24	32.3.1	NS	通行人	NS-Lokal von Dellbrügge (Tiergarten, ZinzendorfStr.)	自転車で走行中の者が酒場から出てきた多数のナチ党員に止められ、激しい暴行を受ける（共産党のスパイとみなされたため）。	LAB, Rep.030, Nr.7557 Bl.94
25	32.3.10	KPD	NS	KPD-Lokal von Behnke (Friedrichshain, Blumenstr.)	ナチ党員２名が通りを歩いていると、酒場から約15名の共産党員が飛び出してきて襲撃。	LAB, Rep.030, Nr.7576 Bl.299
26	32.4.9	RB	NS	RB-Lokal von Wolf (Neukölln, Kaiser-Friedrichstr.)	ビラ配りをしていたナチ党員約15名が国旗団の酒場の前を通過した後、約40名の国旗団員に襲撃され、乱闘へ発展。ナチ党員４名、国旗団員２名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.1561
27	32.6.16	NS	通行人	NS-Lokal von Urban (Kreuzberg, Alexandrinenstr.)	深夜０時前、酒場から数発の発砲と通行人へのつきまとい行為。ナチ党員５名逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.1291
28	32.6.23	KPD	NS	KPD-Lokal von Lange (Kreuzberg, Gneisenaustr./Schleiermacherstr.)	23時過ぎにシュライアーマッハー通りを移動していたナチスの一団に対して、酒場で待ち伏せていた共産党員が襲撃。共産党側からナチスへの発砲で SA 隊員１名が死亡。	LAB, Rep.358–01, Nr.53
29	32.6.23	KPD	NS	KPD-Lokal von Hoppe (Mitte, Fischerstr.) KPD-Lokal von Nussbaum (Mitte, Fischerstr.)	フィッシャー通りの２つの酒場及び住宅から移動中のナチスの一団に向けて発砲。３名が重傷。ナチス側も銃撃。ナチ党員26名、共産党員15名を逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.736 LAB, Rep.030, Nr.7544, Bl.67
30	32.7.11	NS	通行人	NS-Lokal von Ziener (Kopenhagenerstr.)	ナチ党員（４名以上）が酒場の前に立ち、日常的に通行人や政敵と思われるものに嫌がらせ行為を行う（日付は警察報告の日付）。	LAB, Rep.030, Nr.7559, Bl.235
31	32.7.13	NS	KPD	NS-Lokal “Zum Turm” (Spandau, Siemensstr./Voltastr.)	酒場から出てきたナチ党員が路上にいた共産党員数名にからみ、警察が介入して両者を引き離す。その後、ナチ党員も共産党員も増員され、全面的乱闘が発生し、発砲により共産党員５名が負傷（うち２名が死亡）。	LAB, Rep.030, Nr.7559, Bl.244
32	32.7.14	KPD	NS	KPD-Lokal von Lachmann (Prenzlauer Berg, Korsörerstr.)	帰宅中のナチ党員たちが酒場から出てきた共産党員に銃撃（約20発）される。負傷者なし。	LAB, Rep.358–01, Nr.1445
33	32.7.23	KPD	NS	KPD-Lokal von Kunze (Ackerstr.)	子どもと散歩していたナチ党員が酒場から出てきた共産党員約15名により、ナチ党の徽章を外すように要求され、18歳の子どもに暴力を振るおうとしたため警察が介入して阻止。	LAB, Rep.358–01, Nr.1258
34	32.7.29	KPD	NS	KPD-Lokal von Knahl (Neukölln, Ziethenstr.)	ツィーテン通りでビラ配りをしていたナチ党員を酒場から出てきた多数の共産党員が襲撃。警察が介入してその場は解散させるが、その後、近くで両社の激しい衝突が発生。共産党員４名、ナチ党員１名を逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.209
35	32.8.3	KPD	NS	KPD-Lokal von Gante (Wedding, Triftstr./Sparrstr.)	SA の警護で帰宅途中のナチ党員を共産党員が襲撃した際、共産党の酒場から増員され、ナチ党員２名がナイフで刺されて負傷。その後、共産党の酒場から通りのナチ党員に向けて発砲。この銃撃でナチ党員１名が死亡、２名負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.8033 GStA, Nr.134, Bl.80
36	32.8.12	RB	NS	Lokal “Maus” (Treptow, Kiefholzstr.)	集会帰りのナチ党員５名が酒場前で国旗団員約20名に襲撃され、乱闘へ発展。乱闘中に酒場からさらに増員される。	LAB, Rep.358–01, Nr.233
37	32.8.13	KPD	NS	KPD-Lokal von Dausacker (Neukölln, Ziethenstr.)	共産党の酒場前でナチ党員２名がからまれ、そのまま通り過ぎた後、笛の合図で酒場から約50名が出てきて暴行。	LAB, Rep.358–01, Nr.232
38	32.8.27	KPD	NS	KPD-Lokal “Sankt Pauli” (Wedding, Neue Hochstr.)	SA 隊員１名が酒場から出てきた共産党員２名に襲撃されて殴られ、帽子を奪われる。	LAB, Rep.358–01, Nr.1414
39	32.10.7	KPD	NS	KPD-Lokal “Zur Taubenbörse” (Friedrichshain, Fruchtstr./Friedensstr.)	SA 隊員１名が酒場から出てきた共産党員４名に襲撃されて、ナイフで刺されて重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.1411
40	32.12.24	NS	KPD	NS-Lokal von Schulze (Friedrichshain, Weidenweg/Eckertstr.)	酒場の前を通りかかった共産党員４名が酒場から出てきたナチ党員約20名に襲撃され、殴られる。共産党員たちは近くの共産党の酒場に逃げ込もうとしたが、背後から銃撃され１名に２か所命中して重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.749

NS= ナチス、SA= ナチス突撃隊、KPD= 共産党、RFB= 赤色前線兵士同盟、SH= 鉄兜団、SPD= 社会民主党、RB= 国旗団

党の酒場（店名不明）の前に８～10名の共産党員が立っていたため、ナチ党員たちが通りの反対側を進んでいたところ、直交するボップ通りからやってきた別の共産党員の集団（20～30名）と鉢合わせとなり、酒場前の共産党員と一緒になってこのナチ党員を襲撃している[59]。さらに1932年12月24日０時過ぎに共産党員４名がナチ党員約20名に暴行された事件も、この４名がヴァイデンヴェークとエッカー通りの角（フリードリヒスハイン）のナチスの酒場（Lokal von Schulze）の前を通りかかった際に発生していた。この事件では、発砲も行われ、共産党員１名が背後から上腕と大腿部に２発の銃撃を受けて重傷を負っている[60]。

こうした酒場前での襲撃に関しては、なぜ相手を政敵と認識できたのかという疑問が生じるが、生活圏内で顔見知りであったという可能性の他に、史料からは襲撃に至るいくつかの背景が見えてくる。まず第一に、政敵が何らかのシンボルを身に着けているケースである。1932年３月10日にブルーメン通り（フリードリヒスハイン）の共産党の酒場（Lokal von Behnke）の前でナチ党員２名が襲撃された事件や同年７月23日にアッカー通りの共産党の酒場（Lokal von Kunze）の前でナチ党員が絡まれた事件はナチ党員が徽章をつけていたことがきっかけであった[61]。また、1931年９月２日にバーン通り（シェーネベルク）の共産党の酒場（Lokal von Wernicke）前でナチ党員２名が暴行された事件では１名がハーケンクロイツ付きの帽子を着用していた[62]。酒場が関わった事件ではないが、1932年７月12日にショセー通り（ミッテ）でアイゼルネフロント（鉄戦線）の徽章をつけて出勤していた労働者をナチ党員４名が襲撃した事件の判決文はこう述べている。「彼ら（ナチス）にとって不快な政治的徽章を身に着けていたということだけで、彼らは自分たちが優勢であるという意識の中で彼（被害者）を襲い、ひどく負傷させるに至った[63]」。政治的なシンボルの公共空間での着用は自らの組織への帰属意識を示すものである一方、政敵にとっては相手を識別し、憎しみを増幅させる役割を担っていたのである。

第二に、政治的な酒場前で襲撃に備えて恒常的に歩哨（見張り）が立つケースや酒場の周辺地域で自転車などによる「パトロール」が行われていたケースである。1932年７月14日23時40分頃、ケルゼラー通り（プレンツラウアーベルク）で帰宅中のナチ党員数名が共産党の酒場（Lokal von Lachmann）から出てきた共産党員に銃撃された事件では、「自転車に乗った者」から前もって酒場にナチ党員が向かってきているという情報が伝えられていた[64]。1932年２月11日にジーメンス通り（トレップトウ）の共産党の酒場（Lokal „Marktbörse“）から出てきた共産党員約30名が通りすがりのナチ党員３名を襲撃して負傷させた事件では、「ナチが外に」の叫び声に応じて客が店内から飛び出しており、酒場の外で何らかの見張りが行われていたと思われる[65]。さらに1932年８月13日20時頃、自転車に乗ったナチ党員２名がツィーテン通り（ノイケルン）の共産党の酒場（Lokal von Dausacker）前に立っ

ていた共産党員にからまれたが、その際に共産党員が笛を吹き叫び声をあげると、酒場から約50名が飛び出してきてナチ党員を自転車から引きずり降ろして暴行している[66]。

第三に、事前に政敵出現の連絡を受けたり、何らかのトラブルが発生して、襲撃側が政敵を酒場やその近辺で待ち伏せるケースもあった。1931年２月12日夜半過ぎにウーラント通り（ヴィルマースドルフ）の酒場に向かっていた共産党員６名が酒場前でタクシーを降りた際に、直交するデュッセルドルフ通りのナチスの酒場（Lokal von Birkau）から出てきたナチ党員から発砲を受け、１名が胸を撃たれて重傷を負っている。この事件の伏線として、数時間前に襲撃者たちを含む多数のナチ党員が共産党の集会に押しかけて引き起こした乱闘騒ぎがあり、その後、一部のナチ党員たちが Lokal von Birkau へ移動し、そこで共産党員を待ち伏せていた。警察報告によると、０時30分頃にこの酒場にナチ党員から「共産党の奴らが来る」との一報が入った後、多数のナチ党員が酒場を出て行ったという[67]。1932年７月19日にグナイゼナウ通り（クロイツベルク）で共産党員の発砲でナチ党員１名が射殺された事件では、ナチ党員の集団が共産党の酒場（Lokal von Emma Lange）の前を通過した際に共産党員と激しい口論となり、酒場を通過後に銃撃戦へと発展している。この時、酒場やその周辺地域では約80名の共産党員たちが党の動員指示を受けてナチ党員を待ち伏せていた。警察はこの事件について「前もって決定され、計画的に実行された一連の行動の一つ」とみなし、「共産党員がただ偶然にナチスと罵り合いになり、それをきっかけに銃撃事件が発生したというのは問題外だ」と報告している[68]。

さらに、酒場前での政敵への襲撃を誘発するもう一つの要因が、酒場付近での政敵のプロパガンダ活動であった。この一つが酒場付近でのビラ配りである。1930年９月12日深夜にヒンデンブルクダム（シュテークリッツ）の共産党の酒場（Lokal „Braunen Bär“）の近くでビラを配っていたナチ党員４名が共産党員に襲撃されている[69]。1931年９月６日午前10時頃にケーペニックの共産党の酒場（Lokal von Kobierski）前で発生した乱闘では、各家庭にビラを配るナチ党員に対して酒場の前にいた共産党員が政治的議論を仕掛け、口論から乱闘へと発展している[70]。国会選挙直前の1932年７月29日にも共産党の酒場（Lokal von Knahl）があるツィーテン通り（ノイケルン）で選挙ビラを配っていたナチ党員を酒場から出てきた共産党員の集団が襲撃したため、警察が介入して両者を引き離している[71]。もう一つのプロパガンダ活動が行進であり、例えば1930年８月24日にバーン通り（シェーネベルク）を行進していたナチ党員にその通りにある共産党の酒場（Lokal von Wernicke）に集まっていた共産党員約80名がからんだため、警察が介入して酒場に戻す事態となっている[72]。国会選挙の投票日である同年９月14日にはヴィクレフ通り（ミッテ）を進んでいた社会民主党と国旗団のプロパガンダ用車両と徒歩行進の一団がこの通

りにある共産党の酒場（Lokal von Eduard Lange）から飛び出してきた多数の共産党員に襲撃されている[73]。以上のように、酒場が面する通りは公共空間ではあっても、その酒場のいわば「縄張り」として部外者や外敵の侵入に対して敏感に反応していたのであり、その結果、そこは酒場からの攻撃の場となっていたのである。

4　酒場への行き帰りでの襲撃・衝突

以上の３つのパターンの他に、政治的酒場をめぐる暴力として酒場への行き帰りでの襲撃や衝突を挙げることができる。表３は政治的酒場へ向かう途中や酒場から帰宅や移動する最中に発生した暴力事件をまとめたものである。この表からまず気づかされるのは、酒場での集会への行き来の際の暴力事件が多い点である。47件のうち、少なくとも21件は集会からの帰宅や集会へ向かう途中で発生しており、しかも表１や表２に比して20年代後半の事例が多くなっている。これは各党派独自の政治的酒場（常連酒場）がまだわずかだった20年代でも、一般の酒場を利用して政治集会が開かれていたためであり、20年代の事例に挙げられている酒場は政治的酒場ではない。

酒場への行き帰りに発生した襲撃事件については、警察の報告書、検察の起訴状、あるいは裁判の判決文の中でしばしば「計画的」あるいは「組織的」な犯行であったと指摘されている。例えば、1927年１月27日にワルシャワ通り（フリードリヒスハイン）の酒場（Lokal von Zosske）でのナチスの集会終了後に発生した襲撃に関して、警察の最終報告書は「この襲撃は計画的であった」とみなしている。この襲撃では、ナチ党員の集団が酒場を出た後、近くのグーベン通りで国旗団や共産党員に襲撃され、ナチ党員数名が重軽傷を負っている。いったん酒場に退避したナチ党員が再び酒場を出ると、今度はコペルニクス通りとロミンテナー通りの間で２度目の乱闘が発生し、さらに複数人が負傷している。この夜はこの酒場付近で３度目の乱闘も起こっており、ナチ党員がナイフで背中を刺されて負傷し、さらに発砲により無関係の通行人が負傷する事態となった[74]。1928年５月８日に発生した襲撃でも、判決文は「共産党による組織的な襲撃」と断じている。この日はエバース通り（シェーネベルク）の酒場（Lokal „Wilhelmshof“）でナチスの選挙集会が行われ、終了後、参加者は警察車両の随行の下でまとまって移動していた。地下鉄駅で解散し少数となったナチ党員に対して数的に優位となった共産党員が角材やステッキを武器に暴行を加え、警察車両がやってくると逃走している[75]。

酒場からの帰宅時での襲撃についても、政敵が何らかの情報を得て途中で待ち伏せしていた事例が報告されている。例えば、1931年２月22日深夜１時30分頃にバウツェン通り（シェーネベルク）の酒場（Lokal von Osang）を出た直後にナチ党員２名が共産党員らしき者５名に襲撃された事件では、２名が店内にいた時に徽章から

【表3】ワイマル共和国後期のベルリンおよびその近郊で発生した酒場への行き帰りでの襲撃・衝突事件

	日付	襲撃者	被襲撃者	酒場（場所）	往路／帰路	概要	典拠
1	25.8.21	KPD	BB	Lokal von Kuhn (ベルリン市内)	帰路	酒場で会合を行った右翼系のビスマルク団員が約30名の武装した共産党員に襲撃され負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.653
2	26.7.14	KPD/RFB/RB	Fridericks-Rex-Verein	Vereinslokal (Kreuzberg, Oranienstr.)	往路	制服を着て酒場での集会に向かっていた右翼系団体メンバー３名が約50名の共産党員たちに襲撃され暴行される。	LAB, Rep.358–01, Nr.830
3	26.9.24	RB	フェルキッシュ系組織	Lokal “Köpenickerhof” (Kreuzberg, Köpenickerstr.)	帰路	酒場での集会終了後、酒場を出た際に待ち伏せしていた国旗団員がフェルキッシュ系組織メンバーを襲撃。	LAB, Rep.358–01, Nr.99
4	27.1.27	KPD/RB	NS	Lokal von Zosske (Friedrichshain, Warschauer Str.)	帰路	集会帰りのナチ党員を共産党員や国旗団員がグーベン通りで襲撃し、ナチ党員３名が負傷。その後も付近で２回の大きな乱闘が発生。襲撃事件以前に、楽器の盗難をめぐって両者でトラブルあり。	LAB, Rep.358–01, Nr.102
5	28.5.8	KPD	NS	Lokal “Wilhelmshof” (Schöneberg, Ebersstr.)	帰路	酒場でのナチスの集会終了後、多数の参加者が警察車両の随行下で移動していたが、警察車両が離れ、人数が少なくなった時点で、角材やステッキで武装した共産党員がナチ党員を襲撃・暴行。	LAB, Rep.358–01, Nr.113
6	28.5.16	KPD	NS	Lokal der Unionsbrauerei (Neukölln, Hasenheide)	往路	酒場で予定されていたナチスの集会に向かっていたナチ党員が400～500名の人だかりに遭遇し、ナチ党員であることが分かると罵声を浴びせられる。警察が介入したが、ナチ党員１名が暴行される。	LAB, Rep.358–01, Nr.116
7	28.8.10	KPD	NS	Lokal von Hansen (Tempelhof, Borussiastr./Neue Str.)	帰路	酒場でのナチスの集会終了後、参加者４名が帰宅途中で共産党員に襲撃され、ナチ党員１名がナイフで刺されて瀕死負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.117 LAB, Rep.358–01, Nr.120
8	28.11.16	NS/ 建設労働者	NS-Lokal (Neukölln, Ziethenstr.)	帰路		ナチスの常連酒場で飲酒した後に帰宅していたナチ党員と夜間道路建設工事をしていた労働者約20名が口論となり、乱闘へと発展。ナチ党員１名が頭血の重傷を負い、数時間後、遅同に転落して溺死(乱闘と溺死の因果関係は不明)。	LAB, Rep.358–01, Nr.2087
9	29.1.1	KPD	NS	Café Salbene (Kreuzberg, Königgrätzerstr.)	帰路	新年の祝いを行った酒場を出て移動していたヒトラー・ユーゲント10～12名がブリュッヒャー通りで多数の若者に襲撃され、暴行を受ける。１名がナイフで刺されて病院へ搬送。	LAB, Rep.358–01, Nr.127
10	29.2.22	KPD	SH	Lokal von Richter (Pankow, Wollankstr.)	帰路	酒場での集会終了後、小集団で帰宅していた青年鉄兜団員を共産党系の若者２名が統撃し、青年鉄兜団員１名が死亡。	GStA, Nr.119, Bl.312
11	29.10.16	KPD	NS	Restaurant Forsthaus (Wilmersdorf)	帰路	ナチスの集会終了後、帰宅途中のナチ党員４名がメクレンブルク通りで多数の共産党員に襲撃・投石され、１名が負傷。他のナチ党員が駆け付けて、共産党員は撤退。	LAB, Rep.358–01, Nr.2188
12	29.12.19	KPD	NS	Lokal von Lasch (Steglitz, Ringstr.)	帰路	２つの集団に別れて酒場を出たナチ党員が遭遇した10～15名の武装した若者の集団に襲撃・暴行され、ナチ党員３名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.135
13	29.12.28	KPD	NS	Lokal von Schulz (Tempelhof, Moltkestr.)	往路	酒場での党員集会に向かっていたナチ党員１名が酒場の手前100メートルのところで共産党員に襲撃され暴行される。	LAB, Rep.358–01, Nr.2605
14	30.6.13	KPD/NS		NS-Lokal “Afrikakasino” (Tiergarten, Lützowstr.) KPD-Lokal (Schöneberg, Kirchbachstr.)	帰路	それぞれの常連酒場から集団で帰宅していたナチスと共産党の集団がアルヴェンスレーベン通りとクルム通りのかどで遭遇し乱闘が発生。	LAB, Rep.358–01, Nr.2339
15	30.6.15	KPD	NS	NS-Lokal “Wienergarten” (Kreuzberg, Wienerstr.)	帰路	酒場でのパーティーを終えて帰宅するナチ党員たちが途中で遭遇した共産党員と口論になり、その後追跡されて乱闘に。ナチ党員の発砲が共産党員１名に命中し重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.2515
16	30.8.6	KPD	NS	Lokal “Finkennest” (Steglitz, Lichterfelderstr.)	往路	酒場に向かっていたナチ党員12名を12～15名の共産党員が襲撃。ナチ党員が逃げたため乱闘には至らず。その後、両者が遭遇した際、共産党員がナチ党員に向かって発砲し、１名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.147
17	30.10.17	NS	KPD	Lokal “Bellevue” (Bernau [ベルリン郊外]) Lokal “Elysium” (同上)	帰路	Lokal “Elysium” での SA の集会後、SA 隊員約25名が酒場から行進を開始し、ベルチャク市内中心部を通って KPD の集会が行われていた Lokal “Bellevue” の前へ。集会が終わり出てきた共産党員と SA 隊員の激しい口論から乱闘へ発展し、ナチス側が発砲。４名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.2511
18	31.1.23	?	NS	NS-Lokal “Altstadt” (Spandau, Charlottenstr.)	往路	酒場に向かっていたナチ党員に対して人混みの中から発砲。	LAB, Rep.030, Nr.7603, Bl.65
19	31.2.9	KPD	NS	Lokal “Strandschloß” (Reinickendorf [Tegel], Hauptstr.)	往路	ナチ党員たちが酒場での集会に向かっていた際に多数の共産党員に襲撃され、ナチ党員２名が暴行を受けて重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.619
20	31.2.13	KPD	NS	Lokal “Blumengarten” (Treptow [Oberschönweide])	往路	市電を降りて集会場に向かっていたナチ党員が多数の共産党員に襲撃され、暴行を受ける。ナチ党員数名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.572
21	31.2.22	KPD	NS	Lokal von Osang (Schöneberg, Bautzener Str.)	帰路	酒場を出たナチ党員２名が店の前で待ち伏せしていた共産党員５名に襲撃され負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.194
22	31.4.27	KPD	NS	NS-Lokal “Ameise” (Schöneberg, Siegfriedstr.)	帰路	夜半過ぎにナチスの酒場を出ていくつかの少人数集団で移動していたナチ党員たちが共産党員約30名に襲撃され、暴行を受ける。	LAB, Rep.358–01, Nr.160
23	31.5.29	?	SH	Lokal von Dietz (Prenzlauer Berg, Schönhauser Allee)	帰路	制服を着用した鉄兜団員40～50名が警官の随行で酒場から地下鉄駅へ移動している最中に、この集団に向けて10～15発の発砲。随行警官２名が負傷。	LAB, Rep.030, Nr.7570/I, Bl.206
24	31.6.28	KPD	NS	NS-Lokal “Ameise” (Schöneberg, Siegfriedstr.)	往路	酒場に向かっていたナチ党員12～15名が別の酒場の前を通過した際に多数の共産党員に追いかけられ投石を受ける。	LAB, Rep.358–01, Nr.174
25	31.8.8	KPD	RB	Lokal von Kichne (Reinickendorf, Residenzstr.)	往路	集会帰りの国旗団員が貼りたての共産党のポスターを剥がしたところ、共産党員が角材で武装して近づき、公論の後に乱闘へ。国旗団員１名が頭を殴られて負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.2464
26	31.9.2	KPD	NS	Lokal (Schöneberg, Bahnstr.)	帰路	酒場を出たナチ党員２名が約15名の共産党員に襲撃され、暴行を受ける。	LAB, Rep.358–01, Nr.173
27	31.9.24	KPD	NS	NS-Lokal “Ratscafé” (Oranienburg [ベルリン郊外])	往路	酒場に向かっていたナチ党員１名が共産党員２名に暴行され、ナチ党員が共産党員の一人をナイフで刺して逃走。	LAB, Rep.358–01, Nr.2634
28	31.11.27	KPD	NS	Lokal von Ulka (Schlossstr.)	帰路	酒場でのナチスの公開集会の終了後、ナチ党員５名が出席者１名を自宅まで登識して送っていた際に、共産党員が統撃し、ナチス側の２名が負傷。	LAB, Rep.030, Nr.7574, Bl.293
29	31.12.9	KPD	NS	NS-Lokal (Prenzlauer Berg, Weißenburgerstr.)	帰路	ナチスの常連酒場から帰宅途中のナチ党員３名が約20名の共産党員に襲撃され負傷。	LAB, Rep.030, Nr.7574, Bl.336
30	31.12.16	KPD	NS	NS-Lokal “Kegelerheim” (Friedrichshain, Petersburgerstr.)	帰路	ナチスの酒場から党員１名が５名の随行で帰宅している途中で共産党員が10～12発の発砲。負傷者なし。	LAB, Rep.030, Nr.7574, Bl.2624 LAB, Rep.030, Nr.7575, Bl.136
31	32.1.19	KPD	NS	Lokal “Bergschloß” (Reinickendorf[Waidmannslust])	帰路	酒場でのナチスの集会終了後、警官が随行して帰宅していた集会参加者約150名を共産党員や共産党支持者の地域が襲撃して、乱闘に発展。ナチ党員１名が刺殺、共産党員２名が射殺され、ナチ党員２名が負傷。ナチ党員と共産党関係者合わせて68名を逮捕。	LAB, Rep.358–01, Nr.37 LAB, Rep.030, Nr.7576, Bl.128ff.
32	32.1.29	KPD	NS	SA-Lokal (Neukölln)	帰路	SA の酒場から帰宅していたナチ党員３名がヘルマン通りとボディン通りの角で10～12名の共産党員に襲撃され暴行を受ける。	LAB, Rep.358–01, Nr.205
33	32.2.6	KPD?	NS	NS-Lokal “Ameise” (Schöneberg, Hauptstr./Wielandstr.)	帰路	酒場から帰宅中のナチ党員１名が背後から共産党員らしき者に襲撃されて頭蓋骨骨折の負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.1664
34	32.3.1	KPD	NS	NS-Lokal “Altstadt” (Spandau, Charlottenstr.)	帰路	酒場から出て帰宅していたナチ党員２名が約15名の共産党員に襲撃され、暴行される。	LAB, Rep.358–01, Nr.1839
35	32.4.7	KPD/NS		NS-Lokal von Steffer (Friedrichshain, Pasteuerstr./Esmarchstr.)	帰路	酒場を出たナチ党員の集団が共産党員の見張りと遭遇して発砲。逃走した共産党員に向けてさらに発砲。その後、再び終結した共産党員からナチスと警官に向けて統撃が行われ、SA 隊員１名と無関係の通行人２名に命中、SA 隊員は後に病院で死亡。	LAB, Rep.358–01, Nr.2534
36	32.4.7	KPD	NS	Lokal von Czopnick (Prenzlauer Berg, Pasteuerstr.)	帰路	集会から帰宅していた約10名のナチ党員に向けて共産党員が発砲。	LAB, Rep.030, Nr.7578, Bl.207
37	32.4.22	KPD	NS	NS-Lokal (Steglitz, Merkelstr.)	帰路	ナチスの常連酒場を出て帰宅中のナチ党員５名が約20名の共産党員に襲撃され、暴行を受ける。ナチ党員１名がナイフで刺されて負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.230
38	32.6.3	KPD	NS	NS-Lokal “Spreehallen” (Mitte, Kirchstr.)	帰路	ナチスの集会終了後に移動していたナチ党員２名が共産党員40～50名に襲撃され、暴行を受ける。	LAB, Rep.358–01, Nr.1194
39	32.6.10	KPD	NS	NS-Lokal (Prenzlauer Berg, Danziger Str.)	帰路	酒場を出たナチスの集団が約200名の共産党員に襲撃される。	LAB, Rep.358–01, Nr.1187
40	32.6.21	KPD	NS	Lokal “Zur Hochburg” (Kreuzberg, Gneisenaustr./Schleiermacherstr.)	帰路	酒場を出て帰宅するナチ党員約20名の集団を共産党の常連酒場（Lokal von Lange）から出てきた共産党員約80名が襲撃。統撃により SA 隊員１名が負傷し、後に病院で死亡。	LAB, Rep.358–01, Nr.53
41	32.6.24	NS	KPD/RB	KPD-Lokal “Pappschachtel” (Schöneberg, Rubensstr.)	帰路	酒場から出てきた共産党員や国旗団員にむかってナチスが発砲し、乱闘へ発展。負傷者不明。	LAB, Rep.358–01, Nr.1581
42	32.6.28	NS	RB	Lokal von Melcher (Steglitz, Düppelplatz)	往路	別の酒場での集会から Lokal von Melcher に向かっていた多数の国旗団員が遭遇したナチ党員から20～25発の統撃を受け、国旗団員１名が負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.201
43	32.7.1	KPD	NS	NS-Lokal “Zugspitze” (Mitte, Böttgerstr./ Hochstr.)	帰路	酒場での SA 集会の終了後、襲撃に備えて集団で帰宅していた SA 隊員に対してレンツェー広場付近でサイドカー付きのバイクから３～４発の発砲。SA 隊員１名が死亡、３名負傷。その後の乱闘で、共産党員２名も負傷。	GStA, Nr.134, Bl.86
44	32.9.7	KPD	NS	NS-Lokal von Steffer (Friedrichshain, Pasteuerstr./Esmarchstr.)	帰路	酒場を出て帰宅していたナチス２名がランツベルガー・アレーとヴィルヘルムシュトルツェ通りの角で約15名の共産党員に襲撃され暴行を受ける（ただし、ナチ党員の申告以外の証拠なし）。	LAB, Rep.358–01, Nr.1434
45	32.10.20	KPD	NS	Lokal von Seitz (ベルリン市内)	往路	政敵に破壊された別の酒場を見に行ったナチ党員３名が最初にいた酒場に戻っている途中で共産党員の２名に遭遇し、共産党員がナチ党員に暴行。ナチ党員１名が重傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.1869
46	32.10.22	KPD	NS	NS-Lokal von Mende (Kreuzberg, Oranienstr.)	帰路	酒場を出たSA 隊員１名がナウニー通りで社会民主党員５名に襲撃されたため逃走。その扱からナチ党員がやってきて乱闘に発展。社会民主党員５名、ナチ党員７名が逮捕される。	LAB, Rep.358–01, Nr.1347
47	32.10.24	KPD	NS	SA-Lokal (Mitte, Dresdenerstr.)	帰路	突撃隊酒場を出て移動していたナチ党員１名が共産党員５～６名に襲撃され、ナイフで上腕部を負傷。	LAB, Rep.358–01, Nr.1519
48	33.1.1	NS	KPD	Lokal von Rohrmann (Tempelhof)	帰路	酒場を出た共産党員の若者が SA 隊員にからみ、その後乱闘の中で SA 隊員に刺されて死亡。	GStA, Nr.135, Bl.158

NS= ナチス、SA= ナチス突撃隊、KPD= 共産党、RFB= 赤色前線兵士同盟、SH= 鉄兜団、RB= 国旗団、BB= ビスマルク団

ナチ党員だと分かったため、待ち伏せしていた[76]。また、1932年１月19日にベルリン北部で発生した銃撃事件もその一例である。この日、ヴァイドマンスルストの酒場（Lokal „Bergschloß“）で約200名が参加してナチスの集会が開催され、終了後の深夜１時前に警官が同行して集団での帰宅が行われた。シェーンホルツ通りにあるフェルゼンエック菜園地区（Laubenkolonie Felseneck）に差し掛かった時、突然鐘が鳴り響き、直後に菜園地区からナチ党員に向けて最初に３発、その後はナチス側も含めて多数の発砲が行われている。この菜園地区の住民は共産党に近い者が多く、襲撃はこの菜園を通る情報を得た住民たちがナチ党員の集団を待ち構える形で発生している。深夜の暗闇の中での衝突のため詳細な経緯は不明であるが、この衝突でナチ党員１名が刺殺、共産党員１名が射殺され、多数の負傷者が出ている[77]。1932年６月21日にグナイゼナウ通り（クロイツベルク）のナチスの酒場（Lokal „Zur Hochburg“）を出たナチスの一団がシュライアーマッハー通りで銃撃された事件でも共産党員がその通りの自らの酒場（Lokal von Emma Lange）やその周辺で待ち伏せしていた[78]。この３日後の６月24日にナチスが国旗団員や共産党員に向けて発砲と暴行を行った事件も、ルーベンス通り（シェーネベルク）の酒場（Lokal „Pappschachtel“）から出てきたところを多数のナチ党員が待ち伏せして発生している[79]。

こうした襲撃を行うために、襲撃する側は何らかの偵察手段を使って政敵の動向を探っていた。例えば、1932年６月３日にキルヒ通り（ミッテ）のナチスの酒場（Lokal „Spreehallen“）で行われた集会から帰宅途中のナチ党員５～６名が30～40名の共産党員に襲撃された事件では、自転車に乗った共産党員１名が酒場の前を偵察し、集会の終了を仲間に伝達していた[80]。1932年７月１日にベティガー通りとホッホ通りの角（ミッテ）にあるナチスの酒場（Lokal „Zugspitze“）で開催されたSAの集会後に集団で帰宅していた参加者が共産党員に銃撃された事件でも、事前に共産党の自転車連絡員がナチスの接近を伝えていた[81]。

ここまでの事例で明らかであるが、こうした襲撃はしばしば集団での帰宅や移動の際に発生していた。ワイマル共和国末期には政敵の襲撃に備えて数名が付き添って酒場から帰宅するケースが増加し、集会後の集団での帰宅の場合には警察が随行することも珍しくなかった。しかし、こうした大人数での移動はかえって政敵の目につくことになり、政敵と認識されて「標的」となる可能性があったと思われる。例えば、1931年11月27日にシュロース通りの酒場（Lokal von Ulka）での集会から帰るナチ党員６名が共産党員らしき５名に銃撃された事件は、集会参加者１名にナチ党員５名が随行して自宅まで送っている際に発生している[82]。また、同年12月16日にペテルスブルク通り（フリードリヒスハイン）のナチスの酒場（Lokal „Kegelerheim“）からナチ党員１名が帰宅する際にも政敵の襲撃を恐れてナチ党員５名が随行しており、その中でナチ党員たちへの銃撃が行われている[83]。1931年

５月29日に鉄兜団員40～50名がシェーンハウザー・アレー（プレンツラウアーベルク）の酒場（Lokal von Dietz）から地下鉄駅に移動する際に警官が随行していたが、それでもこの集団に向けて10発以上の発砲が行われており、警官が居合わせたとしても襲撃者は何らかのタイミングで銃撃や襲撃を行っていた。1932年８月３日未明に発生したトリフト通りとゲンター通りの角（ヴェディング）にある共産党の酒場（Lokal „Zur alten Linde“）から通りにいたナチ党員への銃撃事件は、襲撃を恐れた突撃隊員がナチスの常連酒場で警護を要請し、約15名の付き添いで帰宅していた途中で発生している(84)。また、上述の1932年６月21日に発生したグナイゼナウ通りの共産党の酒場（Lokal von Emma Lange）でのナチスと共産党の衝突も、ナチスの酒場から帰宅する突撃隊員に20名近くの親衛隊員が随行している際の出来事だった。

この他に、酒場への行き帰りに偶然政敵に遭遇したことで乱闘が発生することもあった。1929年12月19日23時30分頃、リング通り（シュテークリッツ）の酒場（Lokal von Lasch）を出た５名のナチ党員が近くのアルゼン通りで共産党員の若者10～15名に遭遇し、そのまま襲撃されて重軽傷を負っている(85)。1930年６月13日深夜にはリュッツォウ通り（ティアガルテン）のナチスの酒場（Lokal „Afrikakasino“）を出た一団とキルヒバッハ通り（シェーネベルク）の共産党の酒場（店名不明）を出た一団が遭遇し、共産党員１名がピストル１発を誤発射したことから乱闘になり共産党員１名がナイフで刺されて負傷している(86)。1931年４月27日深夜にはジークフリード通り（シェーネベルク）のナチスの酒場（Lokal „Ameise“）を出た10～12名のナチ党員が数名の小集団に分かれて移動していると、ほぼ同数の共産党員らしき集団と遭遇・衝突し、いったんはナチス側が共産党員を追い払ったものの、人数を倍（20～25名）にした共産党員に再度襲撃されている(87)。1932年１月29日にはSA の酒場を出たナチ党員３名が途中で２名の若者に遭遇した後、ボディン広場（ノイケルン）で十数名の共産党員に襲撃されたが、３名のナチ党員は一目でナチ党員と分かる服装（半ズボン・ブーツ・ゲートル）をしていたという(88)。さらに1932年３月１日にもシャルロッテン通り（シュパンダウ）のナチスの常連酒場から帰宅していたナチ党員２名が共産党員約15名と遭遇して暴行を受ける事件が発生している(89)。

以上のような酒場への行き帰りで発生した襲撃では、そのほとんどのケースで共産党が襲撃者となっており、そこからは共産党側から一方的に暴力が行使されていたという印象を受ける。しかし、ここで扱った事例のみで実際の状況がそうであったと結論づけるのは早計であろう。史料上に現れる事例はワイマル共和国末期に発生した「無数」の襲撃事件のごく一部であり、また冒頭で触れたように、残された史料にバイアスがあることを踏まえると、共産党が攻撃的で、ナチスは受動的という見方を導き出すことには慎重にならなければならない。この点で同じ史料を用いて共産党の攻撃性という結論を導き出し、全体主義論的な立場からナチスと共産党

を同列化しようとしたシュトリーフラーの結論には首肯できない[90]。

さらに、ベルリン州立文書館所蔵史料のうち、ベルリン地方裁判所検事総局の史料には共産党による襲撃事例が多いのに対して、右翼・左翼別で整理されているベルリン警察本部の史料からは共産党のみならずナチスの酒場の攻撃性も顕になってくる点を指摘しておかなければならない。例えば、リュッツォウ通り（ティアガルテン）のナチスの酒場（Lokal „Afrikakasino“）に関して1931年８月６日付の警察報告は1930年６月からの１年間でこの酒場内や周辺地域でナチスによって引き起こされた騒動24件を列挙している[91]。同様に、ヴィーン通り（クロイツベルク）のナチスの酒場（Lokal „Wiener Garten“）に関しても1930年８月から12月の間にこの酒場の前で発生した７件の暴力事件が、ホドヴィエツキ通りとヴィンス通りの角（プレンツラウアーベルク）のナチスの酒場（Lokal von Kunigk）については1929年12月末から半年間で６件のトラブルが報告されている[92]。カイザー・フリードリヒ通り（ノイケルン）のナチスの酒場（Lokal von Kunkel）に関しては1931年６月から７月にかけて通行人への嫌がらせで警察が15回出動する事態となっており、さらに1931年７月10日から８月１日の間にこの酒場に関わって発生した８件の暴力沙汰について、警察はこれらすべてをナチス側の原因だとみなしている[93]。

こうした点を踏まえるならば、残された史料から指摘されるべきは政治的暴力の党派性ではなく、ワイマル共和国後期のベルリンで酒場と政治的暴力が不可分に結びついていた点であろう。この時期に党派ごとに政治化した酒場は、日常の中で頻発する政治的暴力の温床として、問題をより深刻化させる存在だったのである。

おわりに

以上、本稿ではワイマル共和国後期のベルリンで酒場と結びついて発生した政治的暴力事件の実態について、当局側の文書を利用して明らかにしてきた。ここで取り上げた酒場と関連する政治的暴力事件に加えて、酒場が関係しない事例や史料に登場してこない事例も多数存在することを考え合わせると、ワイマル共和国後期のベルリンでは市内のどこかでほぼ毎日、政敵どうしの政治的暴力事件が発生する状況が生じていたと言っても大げさではないだろう[94]。その中で、1930年代に入ってナチスや共産党の常連酒場が増大していくようになると、政治的暴力は酒場とより密接につながって発生したのである。

酒場が政治的な運動や組織と結びつき、政治的に機能することは、第二帝政期の社会主義労働運動が酒場を集会や会合の場として利用して以来の伝統であり、ワイマル期になると、ナチスや共産党も独自の酒場を持ち、恒常的に党員や支持者が出入りするようになっていった。ただし、第二帝政期の政治的酒場は官憲側の弾圧や監視を逃れるための「隠れ家」の役割を果たしていたのに対して、ワイマル共和国

後期にはそれが政敵との闘争のための「前線基地」として機能するようになっていた。1920年代末以降、ナチスが常連酒場を急速に増大させる中で、酒場は政敵にとって地域内での攻撃目標となり、また政敵を攻撃するための出撃拠点にもなっていたのであり、こうした状況を受けて、1930年代に入ると治安当局は政治的に過激化した酒場の営業制限や閉鎖の措置を積極的にとるようになっていった。

さらにもう一点指摘しておくべきは、ワイマル共和国期のベルリンにおける暴力の常在性あるいは遍在性である。理性的な議論が支配的な市民的公共性を前提にした市民社会のイメージの陰で、政党自らが政敵を暴力によって打倒しようとする風潮がワイマル共和国の社会や政治文化の中に蔓延っていたことをこうした政治的暴力の事例は物語っている。1930年３月11日に共産党がナチスの酒場を銃撃した事件の判決文は以下のように指摘している。「政敵の間でのこうした衝突が最近では驚く規模で蔓延している。したがって、右翼であれ、左翼であれ、すべての公共の平穏を撹乱する者に対しては容赦のない厳格さで対処しなければならない(95)」。さらに、先に取り上げた1930年６月13日深夜に発生したナチスと共産党の一団による激しい乱闘事件の判決文も「政治的闘争の野蛮化には断固として対抗しなければならない」という一文で締めくくられている(96)。こうした警句はその後の類似した事件の判決文の中でも何度となく繰り返されているが、「政治的闘争の野蛮化」が終息に向かうことはなかった。むしろ街頭での政治的暴力はワイマル共和国末期に向けてさらに過激なものとなっていったのであり、「暴力は暴動に参加した数百人程度の共産主義者とナチスよりも多くの者によって政治的変化の手段として社会的に受容されうるものになった(97)」とスウェットが指摘しているように、ワイマル共和国末期に政治と暴力はより親和性を高めながら、ナチス体制下での制度化された政治的暴力への道を開いていくことになるのである(98)。

註

(1)　ワイマル期の政治的暴力については、拙稿「赤いベルリンとナチズム」『歴史家のパレット』溪水社，2005年、同「1930年代初頭のベルリンにおける政治的街頭闘争」『史学研究』282号、2013年、同「ワイマル共和国相対的安定期のベルリンにおける政治的暴力とナチズム」『史学研究』287号、2015年、同「1927年３月の「リヒターフェルデ東駅の衝突」の展開と帰結」『ゲシヒテ』第８号、2015年を参照。

(2)　ワイマル共和国後期の政治的暴力の研究状況については、拙稿「ワイマル共和国中・後期における政治的暴力に関する研究の現状」『鳴門教育大学研究紀要』第34巻、2019年を参照。

(3)　Reichardt, Sven, *Faschistische Kampfbünde: Gewalt und Gemeinschaft im italienischen Squadrismus und in der deutschen SA,* Köln/Weimar/Wien 2002, S.460, Schumann, Dirk,

Gewalt als Methode der nationalsozialistischen Machteroberung, in: Wirsching, Andreas (Hrsg.), *Das Jahr 1933: Die nationalsozialistische Machteroberung und die deutsche Gesellschaft,* Göttingen 2009, S.138. レシュケも SA 酒場をその暴力的な「サブカルチャー」の中心とみなしている（Reschke, Oliver, *Kampf um den Kiez: Der Aufstieg der NSDAP im Zentrum Berlins 1925–1933,* Berin 2014, S.102）。

(4) Schmiechen-Ackermann, *Detlef, Nationalsozialismus und Arbeitermilieus:Der nationalsozialistische Angriff auf die proletarischen Wohnquartiere und die Reaktion in den sozialistischen Vereinen,* Bonn 1998, S.169, Fülberth, Johannes, *„…wird mit Brachialgewalt durchgefochten“: Bewaffnete Konflikte mit Todesfolge vor Gericht Berlin 1929 bis 1932/1933,* Köln 2011, S.31.

(5) Fülberth, *a.a.O.,* S.22.

(6) Swett, Pamela E., *Neighbors and Enemies: The Culture of Radicalism in Berlin, 1929–1933,* Cambridge 2004, p.254.

(7) ワイマル共和国後期の政治的酒場の実態については、以下の別稿で検討している。拙稿「1930年代初頭のベルリンにおける政治的酒場」『鳴門教育大学研究紀要』第35巻（2020年３月発行予定）。

(8) 505件の政治的暴力事件のうち、292件（57.8％）が1932年に発生している。

(9) Reschke, *a.a.O.,* S.39f.

(10) Landesarchiv Berlin (LAB), A. Pr. Br. Rep. 358–01: Generalstaatsanwaltschaft beim Landgericht Berlin-Strafverfahren 1919–1933, Repertorium.

(11) Schmiechen-Ackermann, *a.a.O.*, S.395ff.

(12) 以下、本稿では史料に登場する「Nationalsozialist (en)」と「Kommunist (en)」にそれぞれ「ナチ党員」および「共産党員」の訳を充てる。史料の中で党籍の有無を判別することは不可能であるが、「国民社会主義者」や「共産主義者」を用いる場合の煩雑さや意味の混乱を便宜的に避けるためである。したがって、ここでいう「ナチ党員」には党籍を持つ者に加えて、広くその支持者も含まれており、これは「共産党員」についても同様である。

(13) Im Kampf gegen die Ausschreitungen: Grzesinski über die Terror-Akte, in: *Vossische Zeitung,* Nr.325 vom ８.Juli 1932.

(14) Geheimes Staatsarchiv Preußischer Kulturbesitz (GStA), Rep.77, Tit.4043, Nr.119, Bl.299 u. Nr.128, Bl.65 u.70.

(15) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.510 u. 2538.

(16) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.1589.

(17) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.135, Bl.143.

(18) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.129, Bl.198.

(19) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.593.

(20) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.1666.

(21) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.8013-8014.

(22) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.1158.

(23) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7606, Bl.249f.

(24) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.135, Bl.202.

(25) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.8004.

(26) 警察報告によると、事件から１年以上が経過した1932年12月に元 RFB メンバーの５名が実行犯（襲撃・援護・監視役）として浮上している。実行犯のうち、主犯格の者は事件後ハンブルクに４週間ほど潜伏した後、ソ連に逃走していた。このうち、３名はドイツに戻ったところで逮捕されている。警察は、ハンブルクに共産党の「逃走者用宿泊施設」があると指摘している（LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.8005）。

(27) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.8051ff.

(28) ここでも襲撃犯として唯一実名が上がったグール Guhl という人物は共産党の援助組織の支援（偽造パスポートや資金）で海外に逃走したと報告されている（LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.8060）。

(29) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.117.

(30) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.131, Bl.56.

(31) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.2353.

(32) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.115.

(33) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.119, Bl.284.

(34) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.179.

(35) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.206, LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7558, Bl.23, GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.314, Bl.207.

(36) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.1727.

(37) LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.1880.

(38) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7558, Bl.358.

(39) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1374. こうした政治的酒場への襲撃に加えて、一般の酒場で政治的な行事が行われた際に行われる襲撃の事例も報告されている。早い時期の事例であるが、1926年６月13日にはベルリン郊外のレーフェルデにある酒場（Lokal von Voigt）で行われた鉄兜団の行事を妨害すべく、RFB のメンバーがステッキや棍棒で武装して店内に押し入ろうとして警察に阻止されている（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.297）。1932年１月29日にカールスガルテン通り（ノイケルン）の酒場（Lokal„Karlsgarten“）で予定されていた失業者集会（出席者の多くは共産党支持者）の開始直前に多数のナチ党員がスコップや帯革などで武装して乱入して乱闘が発生し、警察の介入によりナチ党員20名、共産党員４名が逮捕され、多数が負傷する事態となっている（LAB, A. Pr. Br. Rep.358–01, Nr.224）。

(40) 近隣社会の日常に出現した非日常的な存在に対する排除行動という点を反映しているのは、新規開店した酒場が襲撃される事例であろう。本文中で取り上げた1931年９月９日に発生したナチスの酒場（Lokal „Zur Hochburg“）への銃撃事件も共産党の牙城の地区内にナチスの酒場が出現した直後の出来事であり、警察は以下のように報告している。「Lokal„Zur Hochburg“ は1931年８月末に SA 第29中隊の常連酒場になった。この時点から、その地域の過激な派閥グループ支持者の間の政治的状況が極めて尖鋭化した。具体的には共産党員とナチ党員の間の衝突や口論が増加した」（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.8004）。1932年７月にレッシング通り（ノイケルン）にナチスの酒場（Lokal von Arlt）がオープンした際にもこの酒場や周辺地域でのナチ党員への銃撃事件や暴力行為が連続して発生している（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1682）。

(41) Constantin, Theodor, *Alt-Berliner Kneipen,* Berlin 1989, S.24.

(42) *Lokal-Termin in Alt-Berlin: Ein Streifzug durch Kneipen, Kaffeehäuser und Gartenrestaurants,* unternommen v. Paul Thiel, Berlin(o) 1989, S.16.

(43) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.683.

(44) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2348.

(45) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1294.

(46) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.194.

(47) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.21.

(48) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1351.

(49) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.8024.

(50) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.663.

(51) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.108.

(52) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.137.

(53) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.618.

(54) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.627.

(55) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.199.

(56) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2186.

(57) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2358.

(58) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.174.

(59) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.203.

(60) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.749.

(61) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7576, Bl.299, LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1258.

(62) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.173.

(63) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1346.

(64) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1445.

(65) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.227.

(66) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.232. また、コペンハーゲン通りのナチスの酒場（Lokal von Ziener）では大きな襲撃事件は報告されていないが、1932年７月頃には常にナチ党員４名かそれ以上がドアの前に立ち、店の前を通行する近隣住人や政敵に嫌がらせ行為を行っていた（LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7559, Bl.235）。

(67) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2361.

(68) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.134, Bl.77.

(69) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.159.

(70) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.180.

(71) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.209.

(72) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7570, Bl.92.

(73) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2206. 1930年11月30日にはクロイツベルクやノイケルンでのプロパガンダ行進の解散後に、女性数名を含む15～20名のナチ党員の一団がグナイゼナウ通りからノスティーツ通りに入った際、この通りの共産党の酒場（Lokal von Lorenz）やその他の建物から共産党員が現れて隊列を襲撃し、ナチス側の多数が負傷している（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.161）。

(74) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.102.

(75) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.113.

(76) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.194.

(77) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.37, LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7576, Bl.128ff. 警察の報告は、ナチスは偶然にこの菜園地区を通ったのではなく、一定のプロパガンダ効果を狙ってこの菜園地区を通り抜ける道を選択した点を指摘している。ナチス側はこの点を一切否定している。

(78) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.53.

(79) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1581.

(80) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1194.

(81) GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.134, Bl.88.

(82) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7574, Bl.293.

(83) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2624.

(84) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.8033, GStA, Rep.77, Tit.4043, Nr.134, Bl.80.

(85) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.135.

(86) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2339.

(87) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.160.

(88) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.205.

(89) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.1839.

(90) Striefler, Christian, *Kampf um die Macht:Kommunisten und Nationalsozialisten am Ende*

der Weimarer Republik, Berlin 1993, S.16, 20, 307ff. 拙稿「ワイマル共和国中・後期における政治的暴力に関する研究の現状」、220頁以下参照。

(91) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7603, Bl.309.

(92) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7603, Bl.315, LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7553, Bl.88ff.

(93) LAB, A. Pr. Br. Rep.030, Nr.7603, Bl.25ff. ベルリン地方裁判所検事総局の史料でも、共産党による襲撃がナチスの挑発で誘発されたケースが見出される。例えば、1930年10月17日にベルリン郊外のベルナウで発生した暴力事件では、酒場（Lokal „Elysium“）でのナチスの集会終了後に突撃隊員が街中をデモ行進し、わざわざ共産党の集会場である酒場（Lokal „Bellevue“）の前で集会終了後に出てきた共産党員と口論を引き起こし、そのまま乱闘となっている（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2511）。また、上述の1931年４月27日に発生したナチ党員と共産党員の暴力沙汰は、襲撃者であった共産党員に対する判決文の中で「ナチスの暴力行為に対抗する群衆の公共空間での集まり」との指摘があり、ナチス側の暴力もまた日常的になっていたことをうかがわせる（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.160）。さらに、1932年４月22日にメルケル通り（シュテークリッツ）のナチスの常連酒場を出て帰宅していたナチ党員５名が約20名の共産党員に襲撃された事件の判決文でも襲撃の原因として「ナチ党員の挑発的な態度」への「憤慨」を指摘している（LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.230）。

(94) レシュケも次のように述べている。「確かにすでに以前より激しい衝突は起こっていたが、SA と共産党の間の対立は1929年の晩夏以降エスカレートしていったと言われている。死者が出ることも稀ではなかった激しい衝突は、こうしてワイマル共和国末期のベルリンの日常になったのである」（Reschke, *a.a.O.,* S.48）。

(95) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.141.

(96) LAB, A. Pr. Br. Rep.358-01, Nr.2339.

(97) Swett, *op.cit.,* p.298.

(98) Vgl. Weisbrod, Bernd, Gewalt in der Politik: Zur politischen Kultur in Deutschland zwischen den beiden Weltkriegen, in: *Geschichte in Wissenschaft und Unterricht,* 43 (1992), S.391f.

【付記】本稿は JSPS 科研費（基盤研究（C），課題番号：18K01036）の助成による成果の一部である。

（鳴門教育大学大学院学校教育研究科）